One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

147
2006
June

特集

座談会
大学生活の重点項目は？

●同志社人訪問
能楽師　観世流シテ方
橋本 光史さんに聞く

●新島襄の旅した風景
横浜編

CONTENTS

2006 JUNE No.147

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動

特 集

座談会
大学生活の重点項目は? ---- 2

データでみる同大生の2005年度就職戦線 ---- 7

2006年度 大学予算について ---- 9

同志社の研究は今
医学と工学の連携による最先端の研究拠点 ---- 15

CAMPUS NEWS ---- 17
ボクシング王者徳山昌守選手と、タレントの和泉修さんが対談／同志社大学の募金事業／追悼記念礼拝ーJR福知山線脱線事故及び福島でのバス事故から1年を覚えてー／卒業生の新刊図書／本学教員の新刊／Present For You／他

在学生・教員の活躍

新島襄の旅した風景 ---- 11
横浜編　実は、ここが「襄」の誕生地

OP COMMENTARY ---- 14
「大学時代の回想」　商学部専任講師　大原 悟務

MY PURPOSE ---- 27
京都伝統の太夫に挑戦 ～半年間の住み込み修業を経て～
滝澤 尚子さん（文学部美学芸術学科2年次生）

卒業生の活躍

INTERVIEW　～同志社人訪問～ ---- 20
能楽師　観世流シテ方
橋本 光史さんに聞く

MY JOB, MY LIFE　～シリーズ 私と「仕事」～ ---- 23
・片山 譲治さん（1994年文学部文化学科哲学及倫理学専攻卒業）
・宇佐美 牧子さん（2003年法学部政治学科卒業）

ANNOUNCEMENT ---- 25

表紙の情景［夢告館低層棟屋上から］

5月を迎えると、京田辺校地ラーネッド記念図書館前の通路をソヨジが彩る。俯瞰で見ると、芝生の緑と花の紅、白のコントラストが美しい。表紙写真は、夢告館からの風景だ。文化情報学部の開設に伴い、2005年4月に竣工された夢告館。鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、建築面積1,795㎡、延床面積は7,914㎡で、研究室や小教室が入る地上7階の高層棟と、大教室や事務室が入る地上3階建ての低層棟に分かれている。あまり知られていないが、低層棟には屋上緑化が施されている。よく見ると、青々とした芝生の上に、自生したと思われる数種の野草が、小さく可憐な花を咲かせていた。

特集　座談会

大学生活の重点項目は？

人生の中で最も贅沢に時間が使える大学生活は、自由を謳歌できる時期でもあり、社会に出るための準備期間でもある。学生はそれぞれ何を重視し、何に興味をもっているのだろうか。その現状を語り合った。

出席者［右から］
山本明弘さん（工2）、片渕有紀さん（神2）、百合野正博 商学部教授、
桐山由起子さん（文4）、角田彰久さん（経済2）、長谷川健介さん（大学職員）

大学生活の満足度は？

百合野●本日のテーマは「大学生活の重点項目」ですが、私の学生時代と現在とを比べると、重点を置く対象がかなり変わったように思われます。まず、近頃の学生はみんな真面目に授業に出席して、勉強しています。学生時代の私とは違いますね（笑）。私は1～2回出席してみて、面白くなければ次回からは出席しないで、本を読んで勉強しました。だから、皆さんがあまりにも真面目に出席している様子を見ると、授業に出ることが勉強のすべてだと勘違いしているのではないかとちょっと心配になるのです。そこで、新2年次生の3人に話を聞きましょう。入学前に想像していた学生生活と、去年1年間を過ごした実際の経験とを比べてもらえますか。

山本●もともとは国立大学を志望していたのですが、一浪して同志社に入学してみて、私学ならではの自由さを感じました。

百合野●主に何をして過ごしたのかな。

山本●僕の出身は福岡なので、初めての京都をよく散策しました。アルバイトもしましたね。そして、9月には「新島メモリアル・ウォーク」に参加しました。

百合野 正博 司会
商学部教授・学生支援センター所長

百合野●「メモリアル・ウォーク」に参加しようと思った理由は？

山本●新島襄のことを何も知らないからですね。せっかく同志社に入った以上、ぜひ知っておきたいと思ったからです。

百合野●山本君にとって同志社は第一志望ではなかったかもしれませんが…。

山本●確かにそうですが、同志社のルーツを知ったことで、立ち直りました（笑）。同志社に入って良かったことも多いです。

百合野●それは良かった。片渕さんはどうですか。

片渕●私はレスリングの公募推薦枠で神学部に入学したのですが、個性的な人が多いことに驚きました。大学というところは本当にいろいろな人がいるなあ、というのが感想です。

百合野●神学部に入学することに、不安はありませんでしたか。

片渕●入学当初は不安でした。高校までキリスト教について学んだ経験はありませんでしたし、学生が毎日「キリスト様…」と拝むようなところだったらどうしよう、と（笑）。実際には、クリスチャンの学生ばかりではなく、寛容な先生方が多いので、安心しました。

百合野●同志社の神学部は懐が深いですね。学部生全員の顔と名前は一致しますか？

片渕●学年で60人程度ですから、顔は分かりますね。

百合野●講義を欠席すると目立ってしまうでしょう。

片渕●試合でどうしても出席できないことはありますが、毎日の練習は夕方の5時以降なので、私は休まずに済んでいます。

百合野●角田君はどうですか。

角田●山本君と同じく、第一志望校に落ち、一浪して入学したこともあり、入学当初は気持ちが沈んでいました。そんなときに出合った「新島メモリアル・ウォーク」に参加できたことは僕にとって非常に良い経験となりました。信じられないほど多くの人との出会いが生まれた1年間でした。僕は、ブルースバーで演奏することがあるのですが、そこで出会った50代、60代の方と親しくなれたり、学生支援センターのプログラムに参加することで上級生とも話ができたりしました。ホールアート（今出川校地寒梅館ハーディーホールや、京田辺校地ハーホールなどで行われる催しの運営を行う登録制学生アルバイト）の活動も行っています。

百合野●想像と違っていた点はありましたか。

角田●実は、音楽サークルに入っていたのですが、自分の指向と合わなくて…。それで、音楽活動は学外でしようと決めたのです。

百合野●なるほど。では、入学前の期待度を100とすると、1年間過ごしてみての満足度はどのくらいなのだろう。

角田●満足度は高いです。でも、まだ上をめざせるだろうと思います。すべての目標を達成できたわけではありませんから。

百合野●勉強、課外活動、自分の時間と分けるとすると、それぞれの満足度についてはどうですか。

角田●自分の時間には満足しています。自分のしたいことを優先させたために勉強面には余り力を注いではいませんでした。それでもテスト前には必死に机にかじりついていましたけど。

百合野●課外活動には不満なのかな。

角田●ホールアートを含め、もっと頑張って満足度を高めていきたいと思っています。

百合野●片渕さんはどうですか。

片渕●勉強面ではついていけない部分があり、大変でした。レスリングでは、それなりの結果を残すことができましたので、満足はしています。

百合野●山本君はどうですか。

山本●勉強はそれほど楽しくは感じられませんでした。工学部の1年次は基礎科目が多かったからかもしれません。でも、アルバイトには満足しています。学習塾の講師をしているのですが、教え子を希望の大学に入学させることができました。

百合野●全体として満足度のパーセンテージは？

山本●60パーセントです。

片渕●私は65パーセントです。

長谷川 健介さん
（今出川校地学生支援課職員）
2004年文学部社会学科社会福祉学専攻卒業。体育会ソフトボール部OB。学生時代は大成寮に暮らした。新潟県出身。

桐山 由起子さん
【文学部文化学科教育学専攻4年次生】
青少年の健全育成を目的とした野外活動を行う「同志社ワーキングコーラス」で副会長を務めた。三重県出身。

特集 大学生活の重点項目は？

角田●70パーセント程度ですね。

百合野●皆さんの先輩でもある長谷川さんは、学生時代を振り返ってみて、どのような印象でしたか。

長谷川●高校までは野球ばかりやっていたので、そろそろ真面目に勉強しなければ、と思っていました。ところが大成寮に入寮すると、先輩から「大学は勉強するところじゃない、大いに遊べ」と言われたのには驚きました。実際、遊んでいる学生も真面目な学生もいたわけですが、同志社クラスの規模の大学は全国各地から学生が集まりますから、いろいろな人と触れ合いたいと思いました。そのために、勉強もして、課外活動も満喫したいと考え、ソフトボール部に入部しました。とても充実していましたね。

百合野●では1年次を終えた時点での満足度はどうでしたか。

長谷川●１００パーセントでした。

百合野●実は、私も国立組でした。祖母には「同志社は良い学校や。正博に向いている」と励まされたものの、晴れ晴れと入学式を迎えたわけではありませんでした。ところが、入学して1週間ほどで、「同志社は本当に良い場所かも知れないな」と思うようになりました。やはり人間が面白い。多彩な趣味を持っていたり、独特の感性を持っていたりする。彼らと話をしたいがために、音楽を聴き、本を読み、勉強をしたものです。満足度は、周囲との関わりの中で高まっていくと言えますね。

片渕 有紀さん

【神学部神学科2年次生】

体育会レスリング部所属。昨年度アジアジュニア選手権で優勝。競技以外で知り合う個性的な友人に新鮮な刺激をうける毎日を過ごす。大阪府出身。

大学で何を学ぶ？

百合野●さきほど勉強の話題になりましたが、皆さんは今、高校までとは違った勉強をしているのでしょうか。というのも、私は先ほど「今の学生さんは真面目に出席して勉強している」と言いました。この「勉強」と、私の学生時代の「勉強」とは、少し意味が違っていると常々感じているのです。皆さんが思う「勉強」とは、一体どのようなものを指すのでしょう。

山本●僕は、今やっている勉強は、高校までの勉強と変わりがないような気がします。

百合野●工学部1年次は、物理や化学の基礎知識を中心に学ぶからでしょう。

長谷川●学科にもよりますが、そういう傾向は強いですね。

百合野●角田君は、経済学部の勉強についてどう思いますか。

角田●高校までの勉強とは全く違ってはいるのですが、講演会のように教授の話を聞くだけの講義には興味が湧きません。そんな時は図書館で自分の興味のある分野の本を読んだりしています。

百合野●昔と違って、多くの学部で1、2年次から専門科目を始めています。早い段階で、高校までとは違う専門分野に取り組むことができるようにという趣旨なのですが。

角田●僕は初めから経済を勉強したいと思っていました。だからこそ、基礎理論だけではない講義に期待しすぎた部分もあったのかもしれません。社会構造と経済学の関わりなど、応用的な内容の講義は興味を持って受講していました。

百合野●興味のあるものに関しては本を読んだりして、勉強を深めたいと思っているのですね。神学部はどうですか。

片渕●楽しいですね。神学部の専門科目は、高校までは全く習ったことがなかった内容ばかりですから。必修科目は1つだけで、それ以外は自分の興味に沿って科目を選択することができます。私に合った学部だと思います。

百合野●さて、ここまでの話について、最終年次を迎えた先輩である桐山さんは、どのような感想を持ちましたか。

桐山●私も浪人を経験したのですが、同志社が第一志望でした。入学当時を振り返ると、初めての一人暮らし、そして高校とは違う勉強に戸惑っていました。4月のうちはサークルにも入らず、その2つに慣れることに集中しました。1年次の時は、どの講義もきちんと出席しました。

山本 朋弘さん

【工学部環境システム学科2年次生】

新島メモリアル・ウォークに参加。一人暮らしにも慣れ、京都散策やアルバイト等新しい楽しみを発見しつつある。福岡県出身。

2年次になると要領がつかめてきましたね。今、教育職員免許科目を受講しているのですが、受講者の数が多く、どうしても大教室での講義になってしまいます。角田さんの言うように、そのような講義には面白さを感じられないことがあります。出欠をとる講義には出席しますが、そうでない場合は、やはり本を読んで勉強します。グループワークやゼミでの発表と同様に、自ら積極的に参加して進んで勉強した内容は、記憶に残るし、身にも付きますよね。

百合野●学生数の少ない学部では、教授と学生の関係が緊密で、1年次からグループワークができる。これはうらやましいですよね。経済学部や商学部のように学生数の多い学部でも、最近は少人数クラスを設置するようになったので、そういう機会は増えていくと思います。

ところで、今日は浪人経験者が3人いるので聞いてみましょうか。予備校の授業と大学の講義を比べてみて、どのような違いがあるのだろう。

桐山●大学の方が好きです。たしかに予備校の授業は面白かったのですが、受験のための勉強にすぎません。大学の講義は、自分の興味に従って選べる勉強ですから。

角田●予備校の講師と良い人間関係を築けたのは良かったのですが、やはり大半の授業内容は面白くなかったですね。受験勉強は得意ではありませんでした。

角田（つのだ） 彰久さん

【経済学部経済学科2年次生】

学外でバンド活動を行う等、行動の範囲はどんどん広がる。新島メモリアル・ウォークにも参加。大阪府出身。

百合野●角田君の場合、大学で教授との人間関係を構築する段階まではまだ至っていない、ということでしょうね。山本君はどうですか。

山本●大学の講義も、まだ高校・予備校の勉強の延長という印象なので、現段階では判断しにくいです。ただ、今年から実験が始まったのでようやく面白くなってきた感じはあります。

百合野●なるほど、学問に対して学生自身で働きかけていけるかどうかが、大学での「勉強」の質を決めることになるようですね。

大学生活を充実させるには？

百合野●桐山さんは、残りの1年でやっておきたいことはありますか。

桐山●サークルが忙しかったので、アルバイトをしたいです。教員に採用されたら仕事を一生続けていきたいと考えているので、学生のうちに短い期間でいろいろなことを体験するのも楽しいかなと思います。それから、大学生という身分をもっと活用したいですね。たとえば、寒梅館のフィットネスルームなどの大学施設を利用したり、学生割引で旅行に出かけたりしたいです。

百合野●長谷川さんは、学生として利用する立場から、同志社の職員として利用してもらう立場に変わったわけですが、何かアドバイスはありますか。

長谷川●これは後悔になってしまうのですが、大学が主催するさまざまなイベントに、もっと目を向けていれば良かったと思います。阪神の片岡選手やヤクルトの宮本選手のトークショーなども、立看板をよく見ていたら聞きにいけていたのに・・・（笑）。

百合野●私が学生の頃は、映画会や講演会の多くが大学ではなく学生主体で実施していました。今の学生さんにもぜひチャレンジしてほしいと思いますが、まずは「ワット（WOT）」や「トふらっと」など、大学側が提供している企画に参加してもらうことが第一歩かもしれませんね。

百合野●皆さんは、何をしている時が一番楽しいですか。なぜこんな質問をするかというと、日本人には笑顔が減ってきている気がするからです。これには、コミュニケーションの不足が影響していると思います。例えば4人で喫茶店に入ったとして、1人はゲーム、1人は漫画、1人はメール、1人はコーヒーみたいな状況が普通に見受けられます。周囲との関係があまりにも薄くなっている。この点についても、意見を聞かせてもらいたいと思います。

角田●僕は、旅をしている時が楽しいです。この春、九州から関東まで約4週間の自転車旅行をしたのですが、そこでもたくさんの素晴らしい人と出会い、多くの刺激を受けることができました。

百合野●角田君の場合は、あちこち動く先で新たな人間関係を作り出していくようですね。

角田●そうですね、僕にはないものを持っている人たちからの刺激が、今の僕の生活を高めてくれています。そういう意味で、ともにアメリカを歩いたメンバーからは計り知れないほど多くの影響を受けました。

山本●僕は小学校から高校まで、ずっとバスケットボールをしていました。大学に入ってやめてしまったので、空いた時間を持て余していたんです。そんな時に「メモリアル・ウォーク」に参加できたことで視野が広がり、バスケットボール以外にも楽しいことを探せるのではないかと思えるようになりました。そこで先日、青春18きっぷを利用して福岡の実家まで13時間かけて往復してみました。映画の舞台になった尾道市の風景や、ちょうど住民投票をしていた岩国市の様子を肌で感じることができました。また、最近、喫茶店でアルバイトを始めたんです。年配のお客さんと交わす他愛のない会話も楽しいですね。

百合野●キャンパス内でも、たとえば食堂で隣同士になった人に「どこの学部？」って話しかけてみたらどうですか。

山本●それは、ちょっと恥ずかしくてできません（笑）。

百合野●私は誰にでも声を掛けるので、うちの子どもたちは嫌がるのですが（笑）、人と会話をする、人と知り合うということは、生きる喜びの1つではないでしょうか。キャンパスには2万数千人もの学生がいるのに、知り合うチャンスを逃すのはもったいないと思いますよ。

桐山●私は、サークル活動の時間が一番の楽しみです。ボックスという1つの部屋に、それぞれが好きな時間に集まっていろいろな話をすることができます。上下関係も存在し、何か問題が起これば先輩は後輩をきちんと注意して、困っていれば相談に乗る。そういう場所があって良かったと思います。男女問わず、とても濃い人間関係ができています。

片渕●レスリング部にもそんな雰囲気がありますね。だから私も、部員と過ごす時間が楽しいです。

百合野●今日集まってもらった皆さんは、偶然にも濃い人間関係を築いている人ばかりのようですが、周りの学生さんはどうでしょう。私の印象では、講義が終わればさっと帰ってしまうような人が多いように見えるのですが。

角田●講義ノートを借りにくるだけの人はいますね。「いいよ」「ありがとう」と、その場での会話はしますが、それだけで終わってしまいます。

山本●資格試験の専門学校に通っている人などは、大急ぎで帰っていきますね。

百合野●早く合格したいという気持ちは理解できますが、そんなに焦らなくてもいいだろう、とも思います。大学の4年間には、無駄な時間があってもかまわない。

桐山●サークルに入ろうとする学生も、年々減っているような気がします。濃い人間関係を避ける人が増えているのかもしれません。何らかのコミュニティに入ると、自分の時間が拘束されると考えるのではないでしょうか。私たちのサークルでも、新歓の時期はたくさん集まるのに、いざ

データで見る学生生活

学生生活実態調査　同志社生活協同組合調査（2005年実施）

	2005年度	2004年度
大学生活が充実している	83.0	81.3
大学が好き	82.9	87.4

(%)

学生生活の重点

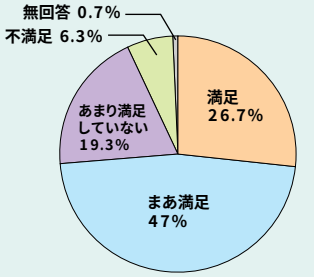
	2005年度		2004年度	
1位	勉強	21.9	勉強	23.6
2位	いろいろ	20.4	人間関係	22.8
3位	人間関係	19.3	サークル	18.3
4位	サークル	17.4	いろいろ	15.0

学生生活で気にかかっていること

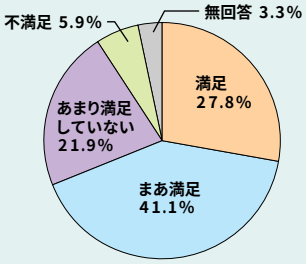
	2005年度		2004年度	
1位	就職	58.1	生活費・お金	58.1
2位	生活費・お金	48.9	勉学上のこと	53.3
3位	勉学上のこと	38.1	就職	51.2
	性格・能力	38.1		
4位			性格・能力	41.9
5位	時間がない	36.7	進路	39.0

（複数回答）

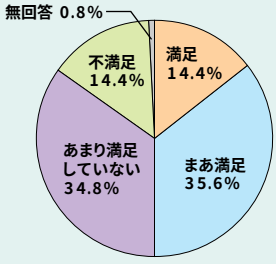
学科・クラスの人間関係



部・サークルの人間関係



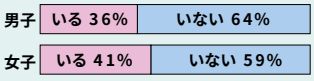
異性との出会い・交友関係



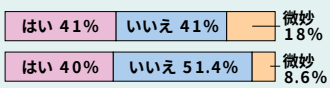
恋愛アンケート

同志社大学 広告研究会　調査・協力（2004年実施）

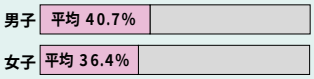
現在、恋人がいますか？



いない人は恋をしていますか？



生活の中で恋愛が占める割合は？



特集　大学生活の重点項目は？

活動が始まると来なくなる人が多いのです。4年次生は24人いますが、2年次生は現在14人しかいません。

百合野●やはり、濃い人間関係を持つことが煩わしいことと捉える人はいるようですね。彼らは何を楽しみにして大学に通っているのだろう。

角田●特に目標もなく、何をやったらいいのか分からないと言う友人もいます。

山本●司法試験をめざす場合など、大学ではなくもっと先に目標を置いている人もいると思います。

百合野●なるほど、大学はあくまで通過地点だと考えているということですね。私たちの頃は、「大学生らしくありたい」という意識が強かった。高校までとは違う勉強をするんだと、古い参考書を捨て、古本屋で買った難しい哲学書を無理矢理本棚に並べたものです（笑）。友人に勧められたジャズがあれば、レコードを買って聴いてみる。自分の部屋がだんだん大学生らしくなっていくことに喜びを感じていました。

では、皆さんにとっての「大学生らしさ」とは、一体どのようなものなのでしょうか。

桐山●講義に出席する、友人を作る、サークルに入り、アルバイトをする。自分の部屋で友人と鍋を囲んだり、夜遅くまでしゃべったり。高校時代に思い描いていた大学生の姿です。

片渕●高校時代は合宿生活でしたが、今は実家から通っています。オフの期間は、自分の時間を自由に過ごせるようになったことで、大学生らしさを感じます。

百合野●自立している、自由な時間がある、ということが大学生になった証拠の1つですね。同志社は、学生がそれぞれ自立していることを前提にしている大学です。つまり、学生が大人として扱われているのです。裏を返せば、それだけ責任も重いわけで、自分で律していくことが求められます。山本君の工学部でも、今はまだ基礎的な勉強をきちんとこなしていく段階だと思いますが、気持ちの面では自立できているのでしょうか。

山本●自由な時間をどう使っていいのか分からない時期があり、今もまだ模索中なのですが、アルバイトなどを通して、少しずつ楽しみを見つけていきたいと思っています。

桐山●時間に余裕があると気が付かないものですが、4年間はあっという間に過ぎていきます。1日1日を大事に、やり残しのないようにと、後輩には伝えています。

百合野●大学では、待っていても何も起こりません。自由な時間を能動的にどう使うべきかを考えることも、自立のためには必要なことです。自分で声をかけてみる、自分で参加してみる、そういった姿勢が肝心だと思います。

それでは、時間が残り少なくなりましたが、皆さんの恋愛事情についても聞いてみましょう。アンケートによると、男子の約3割、女子は約4割に恋人がいるようです。私の学生時代は、学内に女子が少なかったので、女子大と「合ハイ」、つまり合同ハイキングというのが流行っていました。女子にお弁当を作ってもらって、円山公園あたりで一緒に食べるのです。健全ですね（笑）。

桐山●彼氏や恋人という存在は、男友達とは違って、本心を打ち明けられて、お互いに高めることができる存在です。サークル内で付き合うのは気まずいですよね。

百合野●長谷川さんは、奥さんと同じクラブで知り合ったそうですね。

長谷川●ええ、彼女は1歳上のマネージャーでした。彼女が大学を卒業する直前に付き合い始めたので、クラブからは離れた時期でしたね。

桐山●サークル内恋愛で結婚した先輩も結構いらっしゃいます。

片渕●私は、レスリング部内での恋愛はいやですね。気まずいし、練習や試合を見られたくないというのもありますから。

角田●僕は、1人でいると突っ走る癖があるのですが、恋愛したら変わるんでしょうかね・・・（笑）。

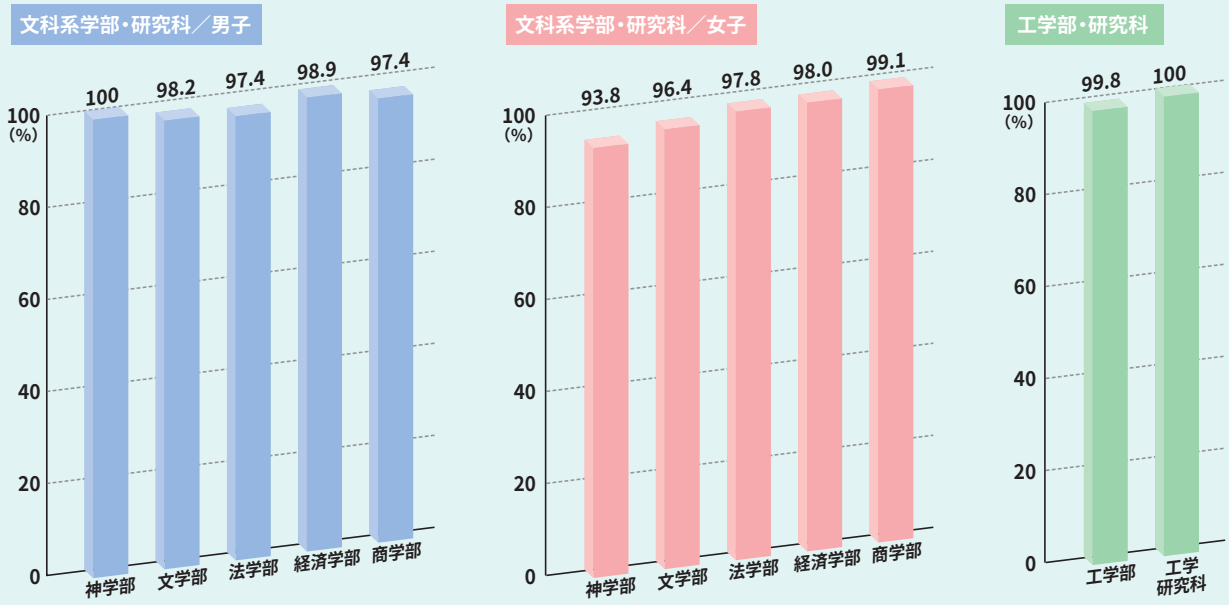
百合野●恋愛も含めて、密度の濃い人間関係を築き上げることが、やはり大学生活を充実させるために欠かせないキーワードになるということですね。

データでみる同大生の 2005年度就職戦線

2005年度の就職状況は、就職率98.0%とほぼ昨年どおり好調に推移した。しかし、社会の変化の中で、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果をあげることができる潜在能力を持った自立した人材を求めている。このような変化の中で、みなさん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ（注1）**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になる。

■就　職　率

就職率＝就職者数／就職希望者数

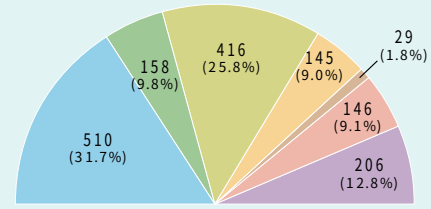


■主な就職先と人数　会社名と人数

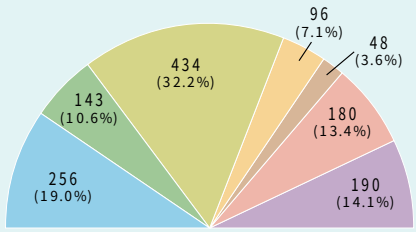
三菱東京UFJ銀行	53	ダイハツ工業	14	マツダ	9	NOK	6	キヤノンマーケティングジャパン	5
京都銀行	44	デンソー	14	三菱重工業	9	オージス総研	6	京進	5
みずほフィナンシャルグループ	42	東芝	14	村田機械	9	大阪市	6	コクヨ	5
東京海上日動火災保険	36	豊田自動織機	14	リクルート	9	大塚製薬	6	CSKシステムズ	5
国家公務員II種	34	日本興亜損害保険	14	オムロン	8	オリックス	6	昭和電工	5
日本生命保険	34	キヤノン	12	関西アーバン銀行	8	関西電力	6	十六銀行	5
三井住友銀行	34	京都信用金庫	12	住友生命保険	8	神戸製鋼所	6	タカラスタンダード	5
南都銀行	28	積水ハウス	12	大日本印刷	8	国民生活金融公庫	6	トーマツ	5
損害保険ジャパン	27	中国銀行	12	日本通運	8	商工組合中央金庫	6	東海旅客鉄道	5
第一生命保険	26	ニチコン	12	日本郵政公社	8	大王製紙	6	凸版印刷	5
野村證券	26	松下電工	12	村田製作所	8	大同生命保険	6	西日本シティ銀行	5
大和証券グループ本社	24	三井住友カード	12	明治安田生命保険	8	大和ハウス工業	6	日産自動車	5
トヨタ自動車	23	りそな銀行	12	イオン	7	中小企業金融公庫	6	ニトリ	5
滋賀銀行	21	ローム	12	エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西	7	TIS	6	日本航空インターナショナル	5
日興コーディアル証券	21	インテリジェンス	11	エン・ジャパン	7	日東電工	6	日本システムディベロップメント	5
三井住友海上火災保険	21	シャープ	11	岡三証券	7	兵庫県	6	日本ヒューレット・パッカード	5
三菱電機	20	池田銀行	10	サントリー	7	広島銀行	6	ノバルティスファーマ	5
住友信託銀行	19	京都府	10	ジェイティービー	7	富士ゼロックス	6	ノヴァ	5
日本電気	19	武田薬品工業	10	太陽生命保険	7	みずほ信託銀行	6	パソナ	5
国税専門官	18	松下電器産業	10	第一三共	7	三菱UFJ証券	6	富士通テン	5
京都中央信用金庫	17	イズミヤ	9	中部電力	7	ライフ	6	ブラザー工業	5
中外製薬	17	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	9	トヨタ車体	7	あいおい損害保険	5	北國銀行	5
日立製作所	17	エヌ・ティ・ティ・データ	9	西日本電信電話	7	アクセンチュア	5	みずほインベスターズ証券	5
京都市	16	大阪府	9	富士通	7	イビデン	5	三菱電機ビルテクノサービス	5
ダイキン工業	16	京セラ	9	ベネッセコーポレーション	7	伊予銀行	5	横浜ゴム	5
本田技研工業	16	クボタ	9	リコー	7	インテック	5	リクルートスタッフィング	5
キーエンス	15	全日本空輸	9	アイシン精機	6	大垣共立銀行	5	レオパレス21	5
資生堂	14	テレウェイヴ	9	旭化成	6	大阪瓦斯	5	ワコール	5

■業種別内定状況

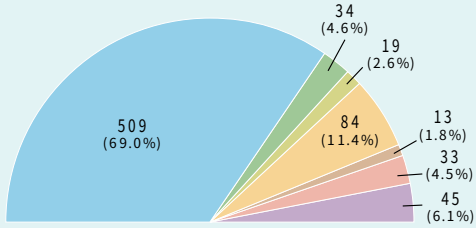
【文科系学部・研究科男子】(人)



【文科系学部・研究科女子】(人)

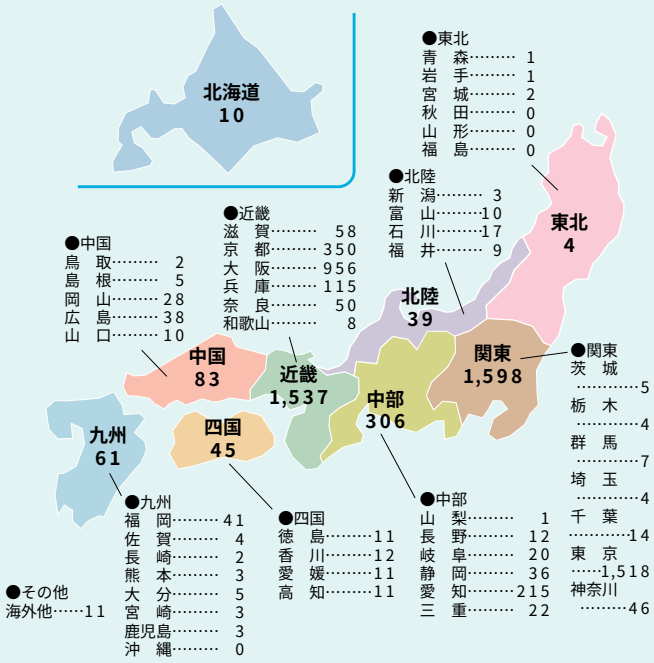


【工学部・研究科】(人)



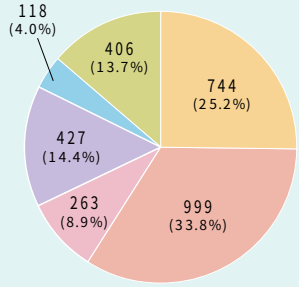
メーカー　流通　金融　マスコミ・情報通信　教育・学習支援　サービス　公共・その他

■地区別内定状況(人)

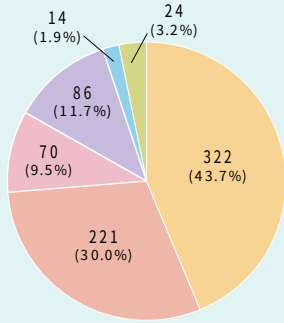


■従業員規模別内定状況

【文科系学部・研究科】(人)



【工学部・研究科】(人)



巨大企業　大企業A　大企業B　中企業
小企業　その他

(注)巨大企業=従業員5,000人以上　大企業A=1,000人以上
大企業B=500人以上　中企業=100人以上　小企業=100人未満

※データは2006年4月22日現在

(注1)インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を2クラス開講しています。学生諸君が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理論との総合をはかり、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリアセンターホームページ**「仕事蔵(しごとぐら)」**でその一部を紹介していますので参考にしてください。

1日インターンシップ

1・2年次生向けに1日企業訪問する課外講座を実施しています。事前研究、グループワーク、企業訪問、卒業生との交流セミナー、事後レポート、成果報告会などを行う、トータルなキャリア形成プログラムです。働くことに対して学生の抱いているイメージと現実とのギャップを埋めるとともに、業界や社会の現状を認識し、学生生活における目的意識や知的好奇心の向上を図る絶好の機会となっています。2005年には東京編も企画され、マスコミコース、メーカーコース、官庁を訪問する霞ヶ関コースが実施されて盛況でした。2006年度も実施する予定です。

参加者の感想

- ●就職はゴールではなく、スタート地点であることを認識。企業の方々からは仕事への愛情と誇りが伝わってきました。(マスコミコース参加・文学部2年次生)
- ●事前レポートの作成を通して企業研究の方法を学び、企業訪問やOB・OG訪問を行うことによって就職活動の実際がわかりました。(メーカーコース参加・法学部3年次生)
- ●普段は機会のない官庁訪問は貴重な体験でした。事前のグループワークで外務省について調べたことも良い刺激になりました。(霞ヶ関コース参加・文学部2年次生)

2006年度 大学予算について

財務部 経理課

大学全入時代が目前に迫るなか、私立大学の経営危機が現実のものとなり、法人化された国立大学の急速な改革の進行とともに私立大学に新たな脅威を与えようとしています。このような状況のもと、本学は建学精神に基づき、個性と特色を明確にした教学体制を順次整備して、多様化する社会の期待に応えてきました。

2006年度は、個性的な教育プログラムの展開や学術情報利用環境の整備、国際戦略体制の具体化に取り組むとともに、競争的外部資金の獲得を促すための支援を行います。同志社小学校については、開設後の運営が円滑に進むよう人的および財政的措置を講じます。また、将来構想という形で示された両校地の総合的整備を遅滞なく実現していくために、財政基盤の強化に努めます。

2006年度予算は、帰属収入の安定的確保を図りながら、これらの優先的課題に配慮し、一方で経常経費の見直しを推し進めて、限られた財源を効率的に配分することを大原則に編成しています。

収入の部

学生生徒等納付金は、前年度開設学部・大学院の学年進行により、前年度に対して8千万円増の257億6千万円となる見込みです。これ以外の収入については、確実に収入が見込めるもののみを計上しているため（主な増減理由は表1に注記）、帰属収入合計は329億3千万円となり、前年度予算に対して4億1千万円の減収となっています。

第2号基本金取崩額は大規模な建設工事や研究装置等の取得資金に充当するもので、2006年度は研究装置の取得資金に3千万円を充当します。

当期固定資産除却額12億6千万円は、固定資産（機器備品）の償却期間完了によるものです。

特定支出準備金取崩額の内訳は、過年度に受入れたオムロン株式会社からの寄付金（オムロン基金プロジェクト宛）6千万円等です。

収入の部合計は343億1千万円となり、前年度予算に対して12億8千万円の減少となる見込みです。

支出の部

人件費は、教員充実計画に基づく実質増員分の経費、定期昇給の必要額等を見込んでおり、前年度に対して3億4千万円増の169億6千万円を計上しています。

事業費は、表1では教育研究経費（減価償却額を除く）、管理経費（同左）、施設関係支出、設備関係支出および予備費に仕訳されていますが、全体では対前年度34億4千万円減の総額125億6千万円を計上しています（事業別予算額は表2参照）。経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については一部の重点項目を除いて極力節減を図ります。建設事業としては、クラーク記念館保存修理（今出川）、防災校地管理システム更新（新町）、デイヴィス記念館湿潤対策空調工事、硬式野球場夜間照明設置、サッカー場クラブハウス建設（京田辺）、および学研都市キャンパス整備などの事業を行います。

徴収不能引当金繰入額5千万円は、学費および学資貸付金の回収不能額に対する引当金に繰り入れる額です。繰入金には、大学から小学校への資金調達額6千万円を計上しています。

第2号基本金組入額の内訳は、教学施設整備資金12億円、情報基盤整備資金3億円であり、いずれも理事会で承認された組入計画に基づくものです。

支出の部合計は349億5千万円となり、前年度予算に対して34億9千万円の減少となります。

収支差額の部

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、6億4千万円の消費支出超過となります。消費支出準備金を取崩すことにより、最終的には8億6千万円の消費収入超過となる見込みです。

（本文中の金額については1千万円未満を四捨五入しています）

主な新規事業

（単位:千円）

教育研究条件の整備充実	
外国語能力テスト等の実施	17,480
プロジェクト科目の実施	8,780
オープンコースコンテンツの作成（教材の電子化）	3,000
司法研究科の教育支援（アカデミック・アドバイザー制度充実、判例法令DB整備他）	42,800
京田辺校地博物館実習開講準備	3,670
旧分類資料、中野譜庫の整理	12,450
図式作成ソフトウェア等の導入	3,430
図書館講習会、ソフト利用講習会の実施	1,820
高大連携教育事業の実施	3,550
外国人学生対象サマーセッションの開催	3,600
第3期南山城総合学術調査の実施	1,390
競争的補助金獲得の支援	35,000
国際戦略体制の強化	20,000

教育研究環境の整備	
情報環境各システムのリプレース	388,020
マルチメディアラウンジ等の整備	18,080
教室および貸出用マルチメディア、AV機器の更新	76,040
図書館施設設備の整備	10,440
教室マイク設備管理システムの改修	96,690
教室音響設備の更新	17,480
e-Learning環境等の整備	32,650
スーパーSINETノード校環境の整備	3,410
個人情報保護対策用大型シュレッダーの導入	2,310
今出川校地既設建物の情報コンセント整備	3,500
新島遺品庫公開システムサーバのリプレース	1,710
寒梅館司法研究科フロアの整備	7,820
明徳館共同研究室などの改装・整備	15,050
徳照館書庫の整備	7,660
光塩館書庫書架の増設	1,410
工学部実験実習設備の改修	13,870
新町校地講師控室の改装	2,300

学生生活支援の充実	
京田辺祭の実施	10,000
熊本キャンプの実施	600
就職システムの機能強化	1,030
課外活動施設設備の整備	19,370

企画広報活動・管理運営	
新設学部・大学院等の広報	17,970
高校教員向け入試説明会	3,000
日経BPムック『変革する大学』の作成	9,000
中部地区広報の充実	9,000
ビジネス誌による広報企画	7,500
その他広報事業の充実（大学案内ビデオ素材編集など）	8,500
人事・給与システムのリプレース	35,000

施設設備更新・省エネルギー化	
今出川校地施設設備の更新（明徳館地下食堂、寧静館トイレ、徳照館屋上防水等）	113,380
京田辺校地施設のライフサイクル修繕（香柏館空調、知真館2号館電動ブラインド、頌真館エレベータなど）	79,270
今出川校地省エネルギー化事業（ガスコージェネ設備、寒梅館デマンド監視装置）	14,570
京田辺校地省エネルギー化事業（高効率照明器具の導入、工学部エリアガスコージェネ設備）	38,050

建設事業（本年度支払予定額）	
クラーク記念館の保存修理（今出川）	271,150
防災校地管理システムの更新（新町）	25,100
デイヴィス記念館湿潤対策空調工事（京田辺）	150,000
硬式野球場夜間照明の設置（京田辺）	100,000
サッカー場クラブハウスの建設（京田辺）	25,000
学研都市キャンパスの整備	1,183,570

■2006年度収支予算書（表1）

2006（平成18）年4月1日から2007（平成19）年3月31日まで　　（単位:千円）

収入の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な増減理由
学生生徒等納付金	25,762,070	25,681,280	80,790	前年度開設学部・大学院の学年進行に伴う増収
手数料	1,394,100	1,324,100	70,000	入学検定料の収納見込増
寄付金	269,620	408,460	△138,840	寄付教育研究プロジェクト研究活動あて寄付金等、収納が確実なもののみ計上
補助金	3,484,770	3,497,740	△12,970	経常費補助金、クラーク記念館保存修理事業補助金等を計上
資産運用収入	311,090	330,530	△19,440	運用利率低下
資産売却差額	0	0	0	
事業収入	171,570	453,980	△282,410	前年度は知的クラスター創成事業あて他受託事業収入あり
雑収入	629,010	786,480	△157,470	定年退職者の減少見込に基づく退職金財団交付金収入の減額
繰出金	731,310	730,080	1,230	
分担金	173,170	128,730	44,440	
帰属収入合計	(32,926,710)	(33,341,380)	(△414,670)	
第2号基本金取崩額	30,000	1,200,000	△1,170,000	前年度は臨光館の建設資金に充当、本年度は研究装置の取得資金に充当
当期固定資産除却額	1,258,060	667,900	590,160	96年度取得固定資産の一括除却
前年度基本金組入額繰延額	0	159,740	△159,740	
借入金等収入	0	100,000	△100,000	学校債募集の停止
当期末未払金	0	0	0	
基本金過年度組入額、未組入額計	(1,288,060)	(2,127,640)	(△839,580)	
特定支出準備金取崩額	93,390	116,930	△23,540	
収入の部合計	[34,308,160]	[35,585,950]	[△1,277,790]	

支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な増減理由
人件費	16,964,600	16,622,260	342,340	教員増員、教員雇用保険加入、定期昇給の必要額
教育研究経費	11,561,040	11,405,030	156,010	主な新規事業参照
消耗品費他	8,338,280	8,373,950	△35,670	
減価償却額	3,222,760	3,031,080	191,680	臨光館等の建物、備品等固定資産の増加
管理経費	1,115,460	1,171,410	△55,950	主な新規事業参照
消耗品費他	1,043,560	1,098,140	△54,580	
減価償却額	71,900	73,270	△1,370	
借入金等利息	69,160	80,200	△11,040	借入金残高の減少
資産処分差額	0	0	0	
徴収不能引当金繰入額	52,150	54,020	△1,870	
繰入金	60,000	460,000	△400,000	本年度は大学から小学校への資金調達額
予備費	200,000	200,000	0	経理規程（経常勘定における帰属収入の7／1000以上を計上）に基づく
消費支出合計	(30,022,410)	(29,992,920)	(29,490)	
施設関係支出	1,778,290	4,299,190	△2,520,900	主な新規事業参照
設備関係支出	1,202,110	2,035,250	△833,140	主な新規事業参照
翌年度基本金組入額繰延額	0	0	0	
借入金等返済支出	354,380	353,480	900	
前期末未払金	0	68,620	△68,620	
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0	
第3号基本金組入額	0	8,400	△8,400	
第4号基本金組入額	90,200	146,600	△56,400	学校法人会計基準に定める「恒常的に保持すべき資金の額」との差額を組入
基本金要組入額、当年度組入額計	(4,924,980)	(8,411,540)	(△3,486,560)	
特定支出準備金繰入額	2,120	32,810	△30,690	
支出の部合計	[34,949,510]	[38,437,270]	[△3,487,760]	

収支差額の部			
科目	予算	前年度予算	増減
当年度消費収支差額	(△641,350)	(△2,851,320)	—
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	1,501,350	1,461,530	—
繰入取崩後消費収支差額	(860,000)	(△1,389,790)	—
前年度繰越消費収支差額	[△23,421,050]	[△22,031,260]	—
翌年度繰越消費収支差額	[△22,561,050]	[△23,421,050]	—

■事業別予算書（表2）

（単位:千円）

事業別予算総括表	
事業項目	予算
人件費	(16,964,600)
事業費	(12,562,240)
基本金・準備金	(1,592,320)
財務費	(535,690)
減価償却額	(3,294,660)
支出の部合計	[34,949,510]

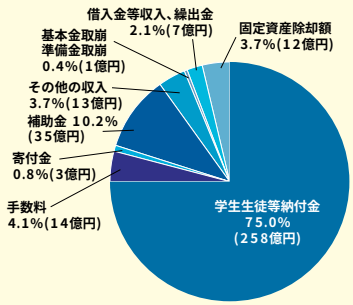
事業費内訳	
事業項目	予算
教育研究費	(5,878,520)
研究費	1,625,790
研究所経費	111,470
実験実習費	672,930
教育研究援助費	772,260
情報処理教育研究費	1,193,260
学術情報整備充実費	373,840
国際交流関係費	172,440
入学試験経費	504,780
教学事務運営費	451,750
学生経費	(912,660)
奨学援助費	444,070
学生生活助育費	379,130
学寮費	89,460
施設・設備整備充実費	(833,730)
施設・設備等整備充実費	833,730
施設・設備維持管理費	(1,273,130)
施設・設備等維持管理費	1,273,130
維持運営費	(740,800)
通信費・光熱水費	740,800
一般管理費	(607,400)
一般管理費	473,410
教職員福利厚生費	133,990
特別事業費（建設事業等）	(1,816,260)
法人経費	(299,740)
予備費	(200,000)
事業費小計	[12,562,240]

基本金・準備金内訳	
事業項目	予算
第2号基本金組入額	(1,500,000)
教学施設整備資金	1,200,000
情報基盤整備資金	300,000
第3号基本金組入額	(0)
第4号基本金組入額	(90,200)
翌年度基本金組入額繰延額	(0)
前期末未払金	(0)
特定支出準備金繰入額	(2,120)
基本金・準備金小計	[1,592,320]

財務費内訳	
事業項目	予算
借入金等返済支出	(354,380)
借入金等利息支出	(69,160)
資産処分差額	(0)
徴収不能引当金繰入額	(52,150)
繰入金	(60,000)
財務費小計	[535,690]

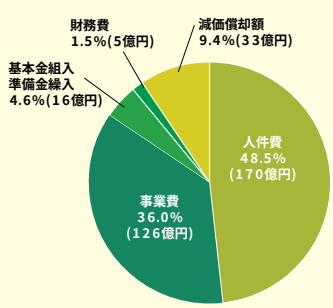
■収支構成図

収入の部



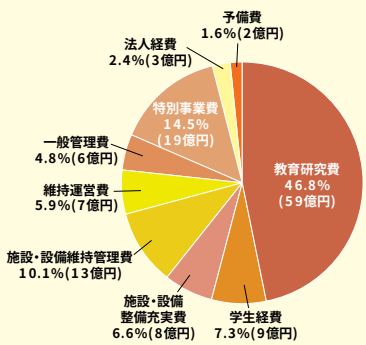
収入の部合計 343億円（うち帰属収入 329億円）

支出の部



支出の部合計 350億円（うち消費支出 300億円）

事業費内訳



事業費内訳計 126億円（うち教育研究費 59億円）

新島襄の旅した風景

横浜編

実は、ここが「襄」の誕生地

文と写真　本井 康博（神学部教授）

旧居留地39番のヘボン邸跡の碑。ルーミス邸もここにあった。現在は横浜地方合同庁舎が立つ。

近くて遠い横浜

新島襄は、江戸で21歳まで暮らした。横浜へ行く機会も多かったはず。が、「籠の鳥」、「袋のネズミ」と自嘲気味に言う通り、藩邸生活は不自由であった。

記録に現れる限り最初の横浜行きは、ようやく1861年（19歳）である。10月に、筆写するため杉本某著『航海詳義』という本を借りに横浜に赴いた。

この翌年、周知の快風丸が横浜港でアメリカ側の売り主から備中松山藩に引き渡されている。もとより、新島の預かり知らぬ一事である。ちなみに、その後、新島が玉島、ついでサハリン行きの同船に乗り込み、倉敷や函館に向かった際は、品川からの乗船である。

函館密出国から10年。新島はアメリカからコロラド号で帰国した。上陸は横浜である。その日（1874年11月26日）の英文日記には、こうある。

「横浜に午後5時到着。グリーン氏やルーミス氏、バラが出迎えてくれた。我々は30分後に上陸。領事館近くのルーミス氏の39番に入る。着くなり、欧米の白人たちから祈祷会に誘われた。後、ルーミス氏に戻り（以下空白）」。

横浜の宣教師たち

波止場で新島を歓迎したのは、日本人より宣教師たちであった。横浜在住の彼らは、新島とは初対面であろう。まずD・C・グリーン。新島と同じ会衆派ミッション（アメリカンボード）で当時、J・C・ヘボンやS・R・ブラウンらと聖書翻訳に取り組んでいた。ついでH・ルーミス（長老派）は現横浜指路（しろ）教会

横浜共立学園内にある「新約聖書和訳記念之地」碑（ブラウン邸跡）。

の初代牧師で、新島とは教派を異にする。が、グリーンの義弟なので、新島を泊めたのか。ちなみに、娘のクラは35年間横浜共立女学校長を務めるが、同志社女学校でも一時、教えた。夫妻の墓やクラの記念碑は、山手の「外国人墓地」（2区63）にある。

最後のJ・H・バラ（改革派）も他教派ではあるが、新島とはすでに交流があった。留学中、密出国者の新島は、横浜在住の浜田彦蔵（アメリカ国籍）やブラウンだけでなく、バラにも留守家族との交信窓口になってもらっていた。

ちなみにブラウンは、一時帰国の際、アーモストに新島を訪ねている。この時、新島は彼に故国への手紙を託した。不思議にも、そのブラウンは横浜埠頭で新島を出迎えていない。そう言えば、ヘボンも新島を出迎えた形跡が薄い。新島が泊まったルーミス邸はヘボン邸に隣接し、共に居留地39番（現在は中区）であったのに、である。

横浜で歯の治療？

不可解と言えば、海岸通りから一筋、中に入った通りの角に立つ「西洋歯科医学勉学の地」碑も、である。アメリカ人歯科医、S・G・エリオットが開業していた居留地57番跡地に、神奈川県歯科医師会が1995年に建立した。問題は、碑文の一節である。

「木戸孝允、新島襄、西郷従道（つぐみち）を治療」した、とある（ただし、英文の説明では、「木戸を始めとする日本の官吏」）。新島治療の件を同会（歯の博物館）に照会し、また他の文献に当たってみたところ、なんと、新島が治療を受けた日まで特定されている。帰国した次の日（11月27日）である。が、新島の日記や手紙には何の言及もない。その上、彼は3日間の滞在予定を繰り上げて、27日には東京に出て、すぐに安中に直行している。

要するにミステリーである。これが翌年1月なら、まだ可能性はある。大阪赴任のため新島は同月、安中から横浜に戻り、7日から20日まで長期滞在しているから。ただし、エリオットは1874年末か翌年始めには、上海に転出しているので、すれ違いの可能性さえある。

「西洋歯科医学勉学の地」碑文。3行目に「新島襄」の名がある。

英語、日本語で説教

それはともかく、1月の長期滞在であるが、新島は初日の7日にグリーン宅（太田町2丁目）を訪ねたようで、H・H・レヴィット（帰国予定のアメリカン・ボード宣教師）にも会っている。その日の宿泊もグリーン宅か。

彼の勧めで、10日の日曜礼拝では説教をしている。場所は、グリーン宅に併設の組合教会系伝道所（市民向け）でなければ、ユニオン教会（ブラウンやバラ、エリオットら外国人が創設）での英語礼拝である。

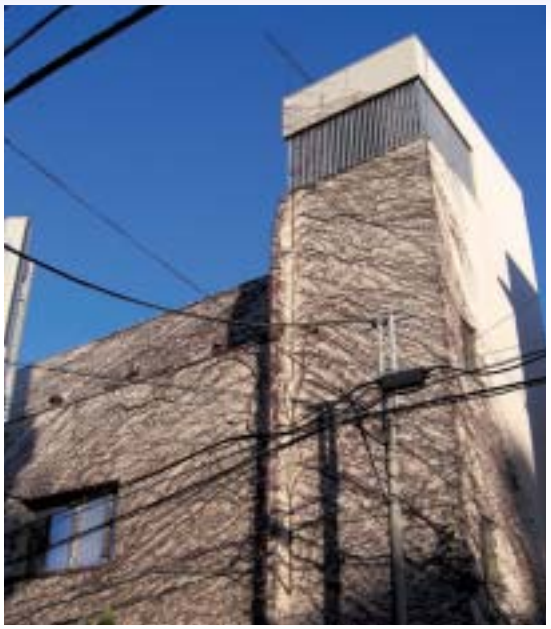
次の日曜にも英語、ついで日本語の説教を披露している。後者は、今度は横浜公会（翌年、横浜海岸教会と改称）か。同教会は、留学中の新島に、かねて牧師就任を要請していた。が、「横浜バンド」（長老派・改革派）の拠点教会に、会衆派牧師であり、アメリカン・ボード宣教師である新島が赴任するはずがない。教会員たちも、横浜での新島の説教が、案外に不出来だったので失望したともいう。

ちなみに新島の恩師、J・H・シーリー教授は、1872年に来日した折、横浜の信徒を相手に留学中の新島の消息を紹介したことがある。

「新島牧師」を待望した横浜海岸教会。日本初のプロテスタント教会。

新島襄の旅した風景

横　浜　編



紅葉坂教会（日本キリスト教団）。新島の死後生まれた同志社系教会。

松山高吉の助言で「襄」に

さらに興味深いのは、国学者で会衆派信徒の松山高吉との邂逅である。当時、松山はグリーンの助手として、聖書翻訳や伝道を手伝っていた。松山はこの頃、グリーン宅で新島と食事をしたことがあるという。おそらく1月7日のことだろう。

この時、新島は漢学に造詣の深い松山に、自分の名前表記について相談したと思われる。松山は、英語名の「ジョウ」（Joe）を「譲」と置換する新島流儀に異議を唱えた。「ゆずる」と誤読されるから「襄」にすべきだ、と松山は忠告に及んだ。

松山の助言に従って新島が「襄」と名乗ったことは、松山が証言する。が、日と場所は不明であった。私は、「新島襄」という日本名は太田町2丁目で1875年1月7日に誕生した、と推測する。なぜなら、同月6日の新島の手紙は「新島譲（ジョウ）」（ルビも新島）であるが、9日の手紙の署名は「新島襄（ジョウ）」（ルビは新島）になっている。以後は一貫して「新島襄」である。要するに、神田で生まれた「新島七五三太（しめた）」は、横浜でこの日、「新島襄」に生まれ変わったのである。

銀行頭取・原六郎

以後も死ぬまで、横浜との繋がりは切れない。当地での主たる仕事は、かつての伝道よりも、同志社募金が主流となる。この地の最高額寄付者は原六郎であった。すでにアメリカで面識があった。同志社女学校出身の土倉富子（どくら）との結婚を仲介し、結婚式の司式をしたのも、新島である。

新島が大学設立運動に取り組んでいた1883年に、原は松方正義大蔵大臣に抜擢されて横浜正金銀行（ぶきん）（後に東京銀行）頭取に就任した。その後、校舎用に千円、同志社大学設立のために六千円を捧げた。日本人としては渋沢栄一と並ぶ大口寄付である。

新島はこの原に対して、「貴殿は吾人之恩人」とまで感謝する。甘党であった新島は、原への手土産も「洋菓」であった。原は最晩年、夫人の感化で受洗した。

心にかかるは「横浜之戦場」

一方、新島の晩年は、教会合同問題と大学募金で明け暮れた。後者は、とりわけ横浜が焦点で、「只心にかゝるハ横浜之戦場」であった。慶応義塾の大学部募金に先んじて、教え子の徳富蘇峰を介して松方大臣に働きかけ、原善三郎や茂木惣兵衛といった富豪への募金依頼を取り付けようと、新島は必死であった。が、積み上げた努力も死によって瓦解した。

「新島襄」の発進地、横浜は、15年後には大学募金の終焉地となった。

神奈川県立歴史博物館（旧横浜正金銀行本店）。新島は原六郎頭取をここに何度も訪ねたはず。ただし、現在の建物は、新島死後の1904年に竣工。

野毛山公園の佐久間象山碑からランドマークタワーを望む。
一帯は新島が寄付を期待した原善三郎や茂木惣兵衛の別荘跡で、原六郎の自宅（700余坪）もあった。新島も足を運んだであろう。

大学時代の回想

この春、大学を卒業した人たちは、環境変化に戸惑い、無意識にも楽しかった大学時代に思いを馳せることがあるだろう。現実逃避とも、大学から社会への移行期に誰もがたどる経路ともいえる。新卒業生を想いながら、大学時代を回想することの意義を考えてみたい。

今年3月、私のゼミから初めて卒業生を送り出した。初めてゆえ、卒業式には印象に残る言葉を贈りたいと意気込んだ。しかし、結局、「時にはゼミを思い出し、同窓生との親交を温めてほしい」とのありきたりなものになった。と同時に、新しい環境に移り行く学生に思い出を大切にというのは、消極的ではと、いささか気が引けてもいた。

さて、日本経済新聞夕刊(今年3月30日)で新入社員へのはなむけの言葉として、寺山修司の詩の一節「ふりむくな、ふりむくな、うしろには夢がない」が引用されていた。大学時代そのものの再現が夢であれば、いくら過去を振り返っても その夢は叶いようがない。しかし、回想することは無意味ではないと思う。

イノベーション・マネジメント研究において、既存の知識や技術、わけても他の領域のそれを活用することの利点が論じられている。この分野の研究者、アンドリュー・ハーガドンは既存知識・技術を組み換え、他の領域で利用できるようにすることを「テクノロジー・ブローカリング(あっ旋)」と称し、その重要性を訴えている。これと同様、大学時代を回想することにより、当時の知識や技能を掘り起こし、現在と将来に役立てることができるかもしれない。

大学時代の回想には、「ブローカリング」ともいえる功利的なものもあるだろうし、その一方で無目的なものもあるだろう。私自身の経験から大学時代を回想する行為とその目的として、① 知識・技能の探索 ② 成功・失敗経験の確認 ③ 体験の追憶の3つが思いつく。後方に進むにしたがい、無目的となり、将来につながらない感がある。

しかし、これら3つの行いを明確に順序立てて区分けできるだろうか。むしろ混ざり合っているとも考えられる。体験を何とはなしに追憶しているさなか、成功や失敗の経験がふと確認されることはないのだろうか。さらに、その経験の確認から自らの知識や技能が認識されることはないのだろうか。もし、これらの行為がこん然としているのであれば、無目的な回想からも将来実現したい目標を見出すことができるかもしれない。とすれば、卒業間もなく記憶が鮮明なうちに回想しておいたほうが、雪だるま式に経験、知識、技能を想起しやすく、体験の追憶でさえ前向きなものに位置づけることができる。

寺山は先の一節を、失われた他者への思いを断ちたいとの文脈で詠んだ。ひるがえって、自分自身が所有する過去についてはどうか。そのまま再現できないからといって無理に断ち切る必要はないと思う。ゼミ卒業生に再会したら、大学時代の回想に目標や理想を再構築する意味があるのでは、と尋ねてみたい。「何と甘いことを」といった反論も含めて、意見交換できたらまた幸いである。

Satomu Ohara

大原 悟務

商学部　専任講師

同志社大学商学部卒業。
同志社大学大学院商学研究科
博士課程(前期課程)修了。
同博士課程(後期課程)退学。
修士(商学)。2003年4月から現職。
専門は商品学。

医学と工学の連携による最先端の研究拠点

医工学研究センターは、2005年度採択された文部科学省学術フロンティア推進事業「医工学研究の新展開―生体適合材料と福祉・介護システムの開発―」の実施拠点として、昨年6月に開設された。工学と医学・医療との学問的融合を図る同センターの意義と展望を、今年度からセンター長に就任した井上望工学部教授に伺った。

同志社大学工学部には、情報、電気、機械、化学だけでなく医学や医療、福祉関係の研究者が多数在籍しています。これまで、研究者が個別に持っていた知識やノウハウを結集して、新しい研究領域を創出しようと立ち上げたのが、この医工学研究センターです。

当センターは、研究テーマごとに3つのグループに分かれています。生体適合材料と再生医療手法の開発およびその支援体制の構築（グループ1）、生体運動機能の解明と福祉・介護システムへの応用・開発（グループ2）、生体適合材料の設計に必要な体内物質と生体機能の評価（グループ3）です。昨年度は、5カ年計画の初年度として、機械システム工学科の松岡敬教授のもと、グループ間で情報交換を行いながらそれぞれ研究を進めてきました。2年目の今年度は、各グループを有機的に結合させ、1足す1が3にも4にもなる相乗効果を生み出すことを主眼に活動していきたいと考えています。

グループ1が開発を行う生体適合材料とは、いわゆるインプラントと呼ばれるもので、人工骨や人工関節に用いるチタン合金や超高分子量ポリエチレンなどで作られます。「適合」には、いろいろな要件があります。まず、生体内に入れるものですから、生物学的に安全でなければなりません。次に、骨や関節などの運動器に用いる場合は、力学的適合性が必要になります。生体骨を例にとってみると、生きた組織である生体骨は、新しくできた力学的環境に適応してしまう性質を持っています。つまり、あまりに剛性が異なる人工骨を入れると生体骨はやせていき、やがて吸収されてしまいます。これを避けるために、生体骨に一定の荷重をかけ、本来の強度を保てるように設計するのです。力学的適合性の他、材料の摩耗も問題になります。長年のうちに微量の摩耗粉が発生し、生体骨と人工骨の隙間に入り込んでしまいますが、白血球系細胞はそれを食べ、さまざまな物質（生物学的因子）を放出します。その影響で、今度は生体骨が溶けてしまうということがわかってきたのです。そこで、摩耗を抑える技術が研究課題の1つとなっています。同時に、力学的、生化学的な生体環境を模した人工関節のシミュレータ開発も進めています。

またグループ1では、究極の生体材料と言われ、今脚光を浴びている再生医療分野に材料工学的側面から寄与する取り組みも始めています。同志社大学と学術交流協定を結んでいる京都府立医科大学では、現在、角膜上皮細胞の再生医療の臨床応用が進められています。そこで、京都府立医科大学や本学の寄付研究教育プロジェクト「再生医療研究センター」と共同して、細胞再生の足場となる生体適合性材料の作成を行っていきます。

グループ2では、福祉、介護に役立つ研究を行っています。具体的には、高齢者や障がい者の身体的機能を補う車いす、介護ロボットなどの開発ということになります。単に動きを補助するだけでなく、日常的に使う場合の安全性を考え、ロボットが「ユーザーの感情や表情、呼吸や筋肉の動きを感知して作動し、危険回避も行う」「知的ユーザーインターフェイス」をめざします。ロボット開発は、身体運動の解析とリンクし

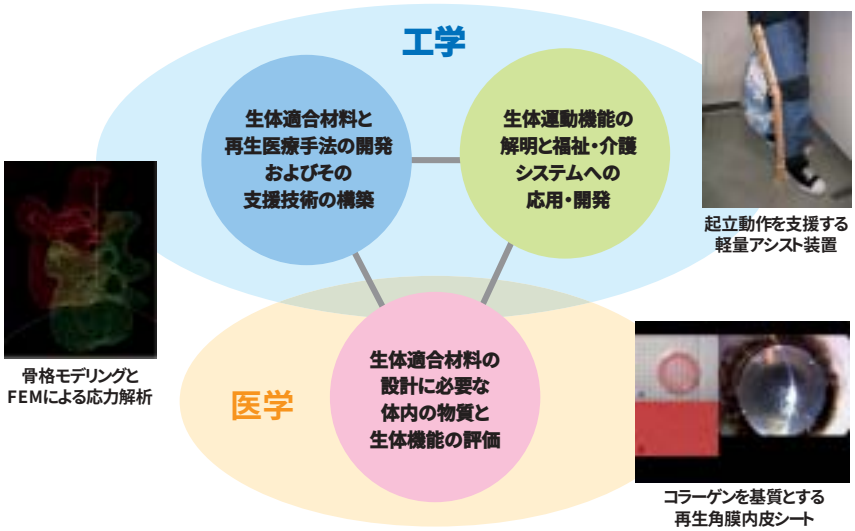
井上 望
医工学研究センター長
【工学部環境システム学科教授】

なければならないので、スポーツバイオメカニクスやスポーツ医学の研究者がメンバーに加わっていることは大変有意義なことだといえます。今後は、医療法人社団医聖会の学研都市病院と連携し、臨床への導入も視野に入れています。

グループ3の領域は、3つのグループの中でも医学的視点に立った研究です。グループ1で研究されている生体適合性材料を設計するためには、生体機能と体内物質と関連する生体影響を検討する必要があります。そこでグループ3では、タンパク質の基になるペプチドから作る新しい生体機能材料の開発や、電磁場や環境ストレスなどの環境因子が生体に与える影響の解析、微量体内物質の検出手法の研究などを行っています。具体例を挙げると、血液中に含まれる「バイオマーカー」という微量物質を検出することができれば、癌や骨粗鬆症の早期発見に役立てることができます。この領域に、従来とられてきた内科的・生化学的な方法論だけでなく、工学的なアプローチを加えることによって、より実際的な研究を行おうとするものです。さらに、血管の内皮細胞が受ける活性酸素からの化学的刺激、血流の流れから生じる物理的刺激を分析し、動脈硬化の予防につなげる研究もなされています。

以上のように、グループ1では材料工学・細胞工学、グループ2ではロボット工学・運動学、グループ3では生化学・分子生物学と、それぞれ異なった分野からアプローチをしていることがお分かりいただけたと思います。

医工学研究の新展開
ー生体適合材料と福祉・介護システムの開発ー



起立動作を支援する
軽量アシスト装置

骨格モデリングと
FEMによる応力解析

コラーゲンを基質とする
再生角膜内皮シート

現在、同志社大学では、学研都市キャンパス構想のもと、医・工の連携を含めた理工系研究施設の充実を図っています。京都府立医科大学や学研都市病院との交流をはじめ、アンチエイジングリサーチセンターやバイオミメティックス研究センターなど、研究成果を共有できる他センターとの連携を深めることによってプロジェクトはより発展することになるでしょう。

医学と工学の連携という面から見ると、日本は欧米に遅れをとっていると言わざるをえません。一例を挙げると、米国では、年間60万人もの整形外科患者に人工関節が用いられています。活発な人工関節の研究・開発の背景にあるのは、死亡した患者から関節の提供を受けられるシステムがあるため研究が容易なこと、そして生体工学者と外科医とが緊密な関係にあることです。しかし、日本も独自の専門分野を持つことで諸外国の研究機関と国際的にコラボレーションすることは可能です。グループ1においても、超音波を用いて骨の力学的特性を評価するプロジェクトがあり、メンバーにはパリ大学の研究者が参加しています。

このような国際化を他のプロジェクトでも実施しようとしています。そして、同志社だけでなく、日本の医工学研究をより発展させることができればと考えています。

医工学研究センターに関する最新情報は、ホームページ
http://www1.doshisha.ac.jp/~biome-rc/ をご覧ください。

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

ボクシング王者徳山昌守選手と、タレントの和泉修さんが対談

4月18日、京田辺校地ハーホールで、新入学生歓迎特別講演会「栄光への挑戦―ボクシング道から得たもの―」が開催され、WBC世界スーパーフライ級王者の徳山昌守選手と、タレントの和泉修さんが対談した。

徳山昌守（本名：ホン・チャンス）選手は1994年、プロデビュー。1998年12月、井岡弘樹選手を5回TKOで降し、世界ランク入り。2000年8月、世界初挑戦でチョ・インジュ選手を破り王座奪取に成功すると、その後8度もの防衛に成功。2004年6月、9度目の防衛戦で川嶋勝重選手にまさかの1ラウンドTKO負けを喫し、王座陥落。しかし翌2005年7月、1年以上のブランクを経て世界再挑戦。川嶋選手に判定勝ちし、世界王座に返り咲く。今年2月、ホセ・ナバーロ選手（米国）を12回判定の末に降し、初防衛に成功した。

タレントの和泉修（本名：釘田修吉）1986年文学部卒業、2004年大学院総合政策科学研究科修了）さんは浪速高校時代、先輩である赤井英和氏に憧れてボクシングを始めた。高校総体優勝、ロス五輪代表候補となり、同志社大学に入学。卒業後吉本興業に所属し、漫才コンビ圭・修として活躍。現在はテレビ・舞台の他、大学の客員講師などでも活動している。

2人は名門ボクシングジム、グリーンツダの先輩と後輩。徳山選手の世界戦を和泉さんが観戦したことで親交が深まり、その後和泉さんはセコンドとして徳山選手の試合を見守ってきた。「修さんの声はよく通るし、アドバイスが的確でありがたい」。

対談は2人がボクシングを始めたきっかけから始まった。東京出身の徳山選手は、空手師範代の父のもとで稽古に明け暮れていたが、高校に入学した時、偶然目にしたボクシング部の格好良さに憧れて転向。プロ入りを決意した際、周囲の環境を変えてボクシングに打ち込むために大阪へとやってきたという。連続8度の世界スーパーフライ級王座を防衛という輝かしい戦歴がクローズアップされるが、それまでに日本フライ級王座に2度挑み、いずれも失敗した。

「対戦相手の勝負に対する姿勢から多くのことを学んだ」という。その後再起を懸けた試合で井岡選手に勝利し、世界戦への弾みをつけた。和泉さんの「あの試合、井岡選手のセコンドに付いていたのは僕なんです」という告白に「知らなかった（笑）」と驚いた徳山選手。「あの挫折があったからこそ、世界スーパーフライ級タイトルマッチに初挑戦で勝利することができたのかもしれない」と振り返った。

続いて、勝ち続けることの辛さに話が及んだ。「1度負ければ終わり」というプレッシャーの中、徳山選手は、試合が終わると1度ボクシングを完全にオフにして、ひたすら遊ぶという。そして試合が近づくと一転、ストイックな生活に戻る。「彼のメリハリはすごい。遊ぶときは遊び、集中する時は集中できるのが一流の証しだ」と和泉さんは解説。また、意識を失いながらも試合を続けた初防衛戦を振り返り、「セコンドの指示に、しっかりと反応していた。練習の積み重ねがあればこそ。また、精神力の強さは他のどんな選手にも負けない。そうでなければ、連続8回防衛という、日本歴代3位の記録は生まれない」と絶賛。対して徳山選手は「道険笑歩」

というモットーを披露。「僕が作った言葉で、どんなに道は険しくても、笑顔で進んでいこうという意味です」。「そうは言っても、相手に向かっていく時はものすごく怖い顔なんですよ」と和泉さんの切り返しに、会場は笑いに包まれた。

9度目の防衛戦で川嶋選手に敗戦した原因について、徳山選手は「勝ち続けることに精神が付いて行かなかったし、正直、負けてほっとした。しかし、時間が経つに連れ、このまま引退してしまうことに悔しさが湧いてきた。『どん底から這い上がって、もっとすごい男になれ』と神様が与えてくれた試練だったんじゃないかと思う」と再戦を決意するまでの心情を語った。「自分の限界を超えた」というほどのトレーニングの結果、「試合では自分でも驚くほど冷静になれた」と語る徳山選手。見事、リベンジを果たし、王座に返り咲いた。

徳山選手は「プロスポーツ選手のあり方には2つの考え方がある。1つは、観客を沸かせるのがプロ、もう1つは結果を残すのがプロ。結果を残していくことに全力を傾けてきた」とこれまでのボクシング人生を総括した。

最後に、和泉さんは「同志社大学に入ったという事実だけで社会はある程度認めてくれる。しかし、同志社に入ったことの意義は、この4年間で、自分で作っていかなければならない。ぜひ頑張ってほしい」。そして徳山選手は、「努力は絶対に裏切らない。かいた汗の分だけ、成功に近づくことができます。夢を大きく持って、それに向かって突っ走ってください」と熱いメッセージを送り、講演会を締めくくった。

同志社大学の募金事業

本学では、建学の精神に基づく教育研究事業を将来にわたって維持発展させていくために、かねてから父母、教職員はもとより広く社会全般に向けて募金のご協力をお願いしてまいりました。

昨年度は、教育研究活動を展開する施設設備の整備を目的とした「教育研究施設等整備募金」、経済的困窮に苦しむ学生を支える特定寄付奨学金制度の資金に充てる「奨学金資金募金」、次代を拓く情報教育プロジェクトを支援する「同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金」、京田辺校地ラグビー場の整備を進めるための「体育施設（ラグビー場人工芝）整備募金」など、数々の募金事業を行いました。これに対してご父母、卒業生、法人、教職員など多方面からご協力をいただき、集まった資金を活用して所期の事業を滞りなく実施することができました。これも皆様方の深いご理解の賜物と、厚くお礼申しあげます。

2005年度の募金事業の実績についてご報告いたします。

なお、奨学金資金募金では3月末までに、卒業生および教職員の方々から左記のとおりご協力をいただきました。

2005年度　募金事業実績報告書

募金事業	寄付件数および金額			使　途
教育研究施設等整備資金募金	在学生父母	557件	57,401,280円	2005年度に実施した臨光館（新町校地）、恵喜館（京田辺校地）等の施設整備資金として活用 ■建設事業の詳細は、学校法人同志社発行「事業報告書2005」（同志社大学2005年度の事業実績）に記載しています。
	卒業生、一般、法人	221件	135,872,500円	
	計	778件	193,273,780円	
奨学金資金募金	卒業生、一般、法人	69件	8,704,860円	2005年度に実施した特定寄付奨学金給付の資金として活用 給付件数29件、 給付総額8,700,000円 残額は2006年度の同奨学金資金として繰越
	教職員	62件	5,988,000円	
	計	131件	14,692,860円	
体育施設（ラグビー場人工芝）整備募金	卒業生、一般、法人	24件	812,480円	京田辺校地ラグビー場人工芝整備に係る資金として活用
	教職員	26件	778,000円	
	計	50件	1,590,480円	
同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金	卒業生、一般、法人	21件	5,185,000円	2005年度に実施した同志社ローム記念館プロジェクト（教職員、学生、生徒と産・官・学・地域の連携によるプロジェクト）の支援資金として活用
	教職員	19件	1,070,500円	
	計	40件	6,255,500円	

2005年度協力者ご芳名（2006年2月～3月申込分　順不同　敬称略）

卒業生、ご父母一般
300,000円　キヨーワファシリティーズ株式会社
5,000円　野村 長宏

教職員
1,000,000円　中井 晨
250,000円　堀川 宏
10,000円　太田 博之
ご芳名のみ　森田 章
100,000円　匿名1人（匿名合計）

※教育研究施設等整備資金募金、体育施設整備募金、プロジェクト・サポート募金のご芳名につきましては、別途芳名録を作成しご寄付いただいた方々にお送りしています。

これらの募金事業については、本年度以降も社会各界に対して継続的に呼びかけを行ってまいりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申しあげます。

（財務部経理課）

CAMPUS NEWS

追悼記念礼拝
―JR福知山線脱線事故及び福島でのバス事故から1年を覚えて―

昨年4月25日午前9時18分、JR福知山線尼崎―塚口間で、宝塚発同志社前行き快速電車が脱線転覆。この事故で、本学学生3人が犠牲となり、25人がけがを負った。

そして、4月28日に起きた福島でのバス事故。入学間もない学生が帰省途中で犠牲となった。

キャンパスが悲しみに包まれたあの日から1年。京田辺校地では、青空チャペルで昼休みに追悼記念礼拝をもち、約500人が祈りを捧げた。奨励者の八田英二学長は「私たちはこの事故で人生とは何か、命とは何かを考え、かけがえのないものと知りました。犠牲になられた方の魂の平安を祈りたい」と述べ、学生向けて「同志社大学生として、悲しい傷を負う人の側にいて手を差しのべられる人になりましょう」「自分の命が大切なように他人の命も大切」「今いかに生きるべきか考えよう」とメッセージを送った。

同日、今出川校地でも午後6時から追悼記念礼拝が行われ、同志社礼拝堂には、約200人が集まった。

～卒業生の新刊図書～

『京都の移ろい―京都・心の散歩道―』
石津 忠彦さん（1966年工学部卒業）
新生出版 ¥1000（税別）

『伸びる組織のための賃金制度改革』
赤津 雅彦さん（1977年商学部卒業）
労働法令 ¥1500（税込）

『12か月のハッピーバースデーケーキ』
中西 美和さん（1998年文学部卒業）
文化出版局 ¥1500（税別）

本学教員執筆図書の紹介（総合情報センター調べ）

新古代学の視点
辰巳和弘 著 小学館 1900円

陸水の事典
井上泰江 他 執筆 講談社 10000円

心と身体の世界化
田口哲也 他 執筆 人文書院 2500円

実践・変化する雇用社会と法
土田道夫 他 執筆 有斐閣 2900円

エーベル／バーナンキ マクロ経済学 上
伊多波良雄 訳 シーエーピー出版 3200円

孤独なボウリング
柴内康文 訳 柏書房 6800円

女性の仕事環境とキャリア形成
中村艶子 他 執筆 税務経理協会 2800円

戦争報道の犯罪
浅野健一 著 社会評論社 2300円

変動期社会の地方自治 ―現状と変化、そして展望
藤本昌代 他 執筆 ナカニシヤ出版 3800円

独占禁止法 第2版
瀬領真悟 他 執筆 弘文堂 4600円

社会福祉用語辞典 第5版
空閑浩人 他 執筆 ミネルヴァ書房 2200円

長寿社会を拓く
岡本民夫 編著 佐伯順子 他 執筆 ミネルヴァ書房 3400円

グローバル・トランスフォーメーションズ
田中靖人 他 執筆 中央大学出版部 8300円

日本の会社法
森田章 他 執筆 商事法務 3200円

租税 判例分析ファイルⅠ
占部裕典 編 税務経理協会 3600円

租税 判例分析ファイルⅡ
占部裕典 編 税務経理協会 3600円

租税 判例分析ファイルⅢ
占部裕典 編 税務経理協会 3600円

環境理学
増田富士雄 他 執筆 古今書院 3200円

法律学入門 第3版
前田達明 他 執筆 有斐閣 2000円

アニメへの変容
竹内オサム 他 執筆 現代書館 2200円

ポジティブ心理学
鈴木直人 他 執筆 ナカニシヤ出版 3000円

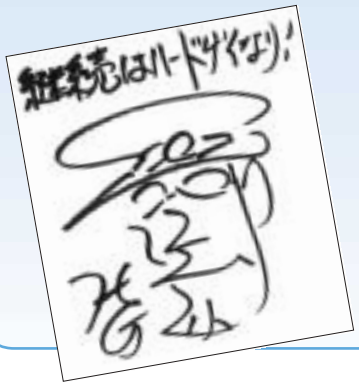
TOPICS

在学中に小型ヨットで太平洋単独横断に成功した友田亨助さん（2004年文学部社会学科新聞学専攻卒業。No.138掲載）の写真展が開催されます。

太平洋のかなたに
大阪―サンフランシスコ ヨット単独航海78日間
友田亨助 写真展
【日時】7月19日（水）～7月25日（火）
10時～18時 最終日15時
【場所】コダックフォトサロン ギャラリー1
東京都中央区銀座6-4-1東海堂銀座ビル3F
E-mail: across_the_pacific@hotmail.com

Present for you

レイザーラモンHGさんのサイン色紙をさしあげます



1日1度はその姿を見るくらい、テレビや舞台で大活躍のレイザーラモンHG（本名:住谷正樹）さんは、1998年の商学部卒業生です。学生時代は、プロレス同盟で活躍されていました。ご希望の方は、ハガキかE-mailで住所、氏名、学部（卒業生の方は出身学部と卒業年）、「One Purpose」の感想をご記入のうえ、2006年7月15日（消印有効）までに、広報課にご応募ください。抽選で4人の方にプレゼントします。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※広報課の連絡先は裏表紙に記載。

※収集した個人情報は、色紙送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用します。

能楽師 観世流シテ方 橋本光史さんに聞く

インタビュアー 松村百合さん
工学部情報システムデザイン学科2年次生

松村●能楽師の家にお生まれになった橋本さんが同志社を選んだきっかけは何だったのですか。

橋本●同志社には、最低限のルールさえ守れば、学生を信頼して自由を認めてくれる校風がありますよね。両親も私もその自由な校風に憧れていたので、同志社中学校を受験したのがきっかけです。大学では、文学部で国文学を専攻しました。英文学にも興味はあったのですが、やはり能楽師として昔の美しい日本語を知っておきたいという思いがありました。

松村●勉強と能の稽古を両立させることはできたのですか。

橋本●実は、中学生から大学生までというのは、能楽師としては中途半端な時期なのです。私は3歳で初舞台を踏みましたが、子方（子役）として舞台に立つことができるのは、高く可愛らしい声が出せる間だけ。声変わりをすると、もはや子方を勤めることはできません。とはいえ、すぐに大人の仲間入りかというと、能の知識も無く、謡うための声も出来ていない。そこで、この期間は、能の知識を身につけるために使われます。私も、四拍子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）の稽古や、二百数番ある物語を学んだりしました。完成された大人の声に近づく大学時代になると、声を出す訓練を始めたり、また能の会で楽屋のお手伝いをしたりします。修行とまではいきませんが、一人前になるために、こうした勉強を積み重ねていくのです。さて、大学での勉強の方は、本来、能に最も関わりが深いのは平安期の文学です。ところが、山田和人教授のお人柄に魅力を感じた結果、私は江戸文学に夢中になってしまいました（笑）。課外活動も積極的にやっていましたね。ジェットスキーのサークルを作ったんですよ。

松村●意外なお話ですね。

橋本●父は幼少の時、海は日焼けするからダメ、球技は突き指するからダメ、スキーは骨折するからダメと、祖父から厳しく言われていたそうです。その反動なのか、父は私には好きなことをさせてくれました。当時、ジェットスキーはどこか軟派なイメージがありましたが、それを払拭して、身近に楽しめるサークルを作りたいと思ったのです。私自身の腕前はそれほどでもなかったのですが、人を集めたり、企業の方に協賛をお願いす

橋本 光史さん
【1992年文学部文化学科国文学専攻卒業】

1969年京都市生まれ。幼少の頃から父・雅夫氏に師事。3歳の初舞台で仕舞「老松」、7歳の時、能「経正」で初シテを勤める。現在、雅夫氏と共に「聲吟社」を主宰。謡曲と仕舞の教室を京都、大阪、東大阪、泉大津、米子等に持つ。
http://www.o-noh.gr.jp/

能楽師　観世流シテ方

橋本光史さんに聞く

る渉外担当をしました。学生のうちから、社会との接点を持てたことは良かったと思います。能と勉強とサークルと、両立というよりはその3つを成り立たせようと頑張った学生時代でした。

松村●私は現在、能楽部に所属し、先輩に稽古をつけてもらっているのですが、橋本さんは子方の頃、どのような稽古をされたのですか。

橋本●私は小学6年生まで子方を勤めていましたが、稽古は本当に厳しくて、「この人は本当にお父さんなの?」と思ったものです。普段はごく普通の父親ですが、稽古になると、とたんに人が変わる(笑)。間違った構えをすると、出来るまで何度も叩かれました。少しできるようになって、一通り自分で舞ってみた時も、その様子を見ていた父は、稽古場にある道具を私めがけて投げつけてくるのです。

松村●さすがに能楽部の稽古とは違いますね。

橋本●もちろんプロですからね(笑)。頭で憶えるのが修行なのではなく、身体に染みこませるのが修行なのです。手を叩かれた痛みで、身体がその角度を憶える。それだけ厳しく稽古をつけてもらってきたのだから、私は間違っていない、という自信がつきましたね。最近、父と差し向かいでお酒を飲むと、「わしも必死やったさかいな」とぽろっとこぼすことがあります。息子を叱るのは父も辛かったのでしょうが、きちんと指導してくれました。ありがたいなと思います。

松村●能舞台から客席に伝わってくる緊張感は、どこから来るものなのでしょうか。

橋本●良い質問ですね。能の所作というのは、不要な部分を削り落とし、凝縮されたものだといえます。10のものを伝えたいとき、例えば演劇では、10の動きを要するかもしれません。能では、その10の動きが1つの所作にまとめられるのです。だから、普通の演劇よりも緊張感が増す。それから、面をつけていると、自分の足下を見ることができないので、「舞台から落ちたらどうしよう」とか、「立つ場所を間違えたらどうしよう」といった単純な間違いに対する緊張感もありますね。もう1つは、無理な姿勢。装束に身体を合わせたうえに足指の付け根に体重を掛けた状態で一曲を舞うので、そこからくる体力的な緊張感もあります。ゆっくりとした動きは一見すると楽に見えますが、全身の筋肉を緊張させているので、実はけっこう辛いのです。

松村●橋本さんは、「日本文学特殊講義」などの科目にも協力されていますが、私たちに、能を通してどのようなことを伝えようとお考えですか。

橋本●能は、和歌や神事、民間伝承などを主題にした物語です。簡単に言うと、「日本昔ばなし」。今の若い世代や子どもたちが知る昔ばなしは、悪事をした後の残酷な結末を語らないことが多いようです。「悪いことをしたら鬼に食べられるよ」とか、「弱い者をいじめたらいけないよ」とか、そんな単純な話からでも子どもたちは善悪を憶えていきます。さらに、核家族化もあって、昔ばなしを聞かせる人も減っています。こ

れでは、善悪がきちんとわかるまともな大人に育つはずがないと思うのです。だから、子どもたちに対しては「能は昔ばなしなんですよ」というアプローチをとり、興味を持ってもらおうと考えています。学生さんに対しては少し進んで、「自分たちは日本のことを知らないんだ」ということに気づいてほしいと思っています。海外に目を向けるのはとても良いことですが、それだけでなく、日本にはこんなに素晴らしい文化があるということをまず理解してほしいですね。一定のレベルを満たすことができて、初めて次の段階に進むことができる。これは、最初にお話しした同志社の「自由」と同じ考え方だと言えるでしょう。

松村●橋本さんにとって、能の魅力とは何でしょう。

橋本●難しい質問ですが、「古典」ということに尽きると思います。能にはおよそ650年の歴史があります。650年もの間、先人が試行錯誤して作り続けてきた芸術だということなのです。「どこが面白いのか」とよく聞かれますが、事実、観て面白いものでも、聞いて楽しいものでもありません。動きはゆっくりだし、しゃべっていることは何を言っているのか分からない(笑)。でも、歴史は感じられますよね。今、自分が観ている能を、「足利義満も観たのかな、秀吉も観たのかな」なんて考えながら、昔の日本に思いを馳せる。それが伝統芸能である能の魅力なのではないでしょうか。

松村●最後に、学生にメッセージをお願いします。

橋本●勉強でもクラブでも、広く浅く試してみて、その中で何か1つ、心に引っかかったことに集中して取り組んでみると良いと思います。私はもともと、謡に必要な太い声を出すことができませんでした。腹に力を入れろ、とは教えてもらえるのですが、声には個人差がありますから、そう簡単にはいきません。仕方がないので、一人あれこれ考えながら、とにかく声を出し続けました。するとある時「これだ」と気づくのです。そのやり方をどんどん自分のものにしていきました。そしてもし間違ったことをしたら、叱ってもらえばいいのです。本気で叱ることのできる大人から叱られることで、身につくことは多いはずです。そして今の皆さんには、多くの経験を積んで、将来は叱ることのできる大人になってほしいと思います。最後にもう1つ、同志社には長い歴史があります。学生さんは、同志社という看板を背負っているという気構えをもって学生生活を送っていただきたい。悪いことをすれば傷が付くし、良いことをすれば学生さんも同志社も名前があがります。

松村●本日のお話はとても参考になりました。ありがとうございました。

お知らせ

面白能楽館 ー お能でいっぷく ー

いろいろな角度から能を鑑賞・体験できる催しです。能の入門編としても、小・中・高校生の自由研究にも最適。

日時：7月29日(土) 10時30分～開演
場所：京都観世会館
料金：一般1500円　学生1000円

INTERVIEWER

松村 百合さん

工学部情報システム
デザイン学科2年次生

先輩方の人柄に惹かれて入部したという能楽部観世会。今は能の奥深さにすっかりはまってしまったと話す。現在は6月の舞台に向けて稽古に励む。夢は情報システムの知識を活かして、メディア関連の仕事に就くこと。

能の魅力に改めて気づくことができました。

能楽師の方に直接お会いして話を伺うことは、とても良い経験になりました。インタビューを通して、橋本さんは自分の考えをしっかりと持ち、それを信じることができる人だということを強く感じました。「何歳になっても、100パーセントの出来というものはない」との話からは、勉強には終わりはないのだということを教わりました。また、今まであまり感じたことがなかった、古典芸能そのものに対する興味も湧いてきました。インタビュー後は、橋本さんが舞台で付けておられる貴重な面(※)を見せていただくことができました。面の角度を微妙に変化させることで、細やかな感情の移ろいを表現するのです。私にはそこまでの技術はありませんが、次回の能楽部の舞台では、気持ちを込めて表現できるようになりたいと思います。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。
級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

運動経験を活かし、選手の思いに共感しながらスポーツの魅力を発信する。

大学での4年間、私はアメリカンフットボールに打ち込みました。4年次にメーカーからの内定を得ましたが、単位が足りず留年してしまいました。翌年度はクラブのコーチを務めながら、自分が本当にやりたいことが何なのか、じっくりと考えてみました。そして見つかった答えは、スポーツの素晴らしさ、面白さを伝えるために、テレビ局でスポーツ番組を制作することでした。

入社当初の配属は営業局でした。そこで、社会人としてのノウハウを学び、3年目で念願のスポーツ局に移ることができました。もちろん、初めから演出などできるわけはありません。しかも、誰かが手取り足取り指導してくれるわけでもないのです。ADだった頃のある日、突然先輩から「1本撮ってみろ」と指示を受けました。サッカー選手に密着取材して、約2分のVTRに編集するのです。たった2分と思われるかもしれませんが、なかなか大変な作業なのです。「出来るわけない…」と思いながらも、やってみるしか方法はありません。四苦八苦しながら仕上げた初作品は、どうにかOKをもらえました。この仕事を覚える唯一の方法は「見て盗み、自分なりのものをつくる」こと。たとえ怒鳴られてもめげることなく、先輩の優れているところを何か盗もうと必死でした。

現在はチーフディレクターとして、スポーツ経験があるからこそ分かる選手の苦労や本音を引き出しながら、いかにして視聴者を楽しませることができるかを考え、番組全体の演出にあたっています。最近は、来年開催される「世界陸上大阪大会」の準備に追われています。1000人規模のスタッフをどう動かすか、会場をどうやって盛り上げるか。一大プロジェクトを何とか成功させたいと奮闘しています。

世界の一流選手と会う機会も多いので、学生時代にきちんと英語を勉強しておくべきだったと後悔することもあります。もちろん、英語に限ったことではなく、「知る」ということは自分の行動の幅が拡がることを意味します。皆さんも学生のうちに、あらゆることに好奇心を持って、多くのことを学んでほしいと思います。そうすれば、自分自身でも気づかなかった新しい扉が開くはずです。

P R O F I L E

片山 譲治さん
【1994年文学部文化学科
哲学及倫理学専攻卒業】
株式会社TBSテレビ
編成制作本部スポーツ局制作センター
番組制作部勤務

体育会アメリカンフットボール部ではセーフティのポジションで活躍。人気番組「筋肉番付」や、オリンピック、世界バレーなどのビッグイベントの演出を手がけてきた片山さんは、2007年「世界陸上大阪大会」で総合演出プロデューサーを務める。「選手に付けるキャッチフレーズにはいつも苦労しています。1つ考えるのに数時間かかることもあるんですよ」と笑う。

私と「仕事」 第30回

商品特性を把握し、効果的な雑誌広告を企画する。

就職活動を始めた頃は、金融業界を志望していました。しかし、さまざまな企業の説明会やセミナーに参加するうちに、同じ業界内でも、入りたい企業とそうでない企業があることがわかりました。理由を考えてみると、社員の方のお話から感じられる社風を好きになれそうか、自分が成長できるイメージを持てるかどうかによって違いが出ていたのです。説明会が終わると、私は社員の方にこんな質問をしました。「悔しい思いをしたことはありますか。また、どの点で成長したと感じられますか」と。これまで、悔しい思いをすることで、それをバネに成長してきたと自分自身が感じていたからです。答え難い質問だったかもしれませんが、真摯な態度で答えてくれる社員がいる会社なら、社風も良く、そこで働くことで自分の成長につながるだろうと考えたのです。こうして選んだのが、現在の会社です。

入社以来、私は雑誌広告の企画を担当しています。商品のターゲット層や宣伝予算などを基に、商品担当者と出版社との橋渡しをして、より広告効果の高い誌面展開を図ります。しかし、ある時、ただの橋渡し役なら「私の存在意義がなくなるのではないか」と不安になったことがありました。その時期を境に、私は自分なりのアイデアを提案していくことにしたのです。私が関わった証しが雑誌の1ページとして形に残る。良いページができると、商品担当者からも出版社からも感謝の言葉を聞くことができ、やりがいを感じられるようになりました。雑誌広告の担当は私1人。仕事量は膨大ですが、今後の課題は、作業の効率と精度を上げること。これを大事な成長の機会と捉え、今の仕事を続けていきたいと考えています。

自分がやりたいことは何なのか、何に価値を置いて生きてきたのか。せっかく自己分析をしても、内定をもらうとすっかり忘れてしまう人が多いようです。社会人になって、もし働くことに迷いが生じた時は、それを思い出してみてください。そうすれば、壁にぶつかったとき、きっと乗り越えていけると思います。

PROFILE

宇佐美 牧子さん

【2003年法学部政治学科卒業】
花王株式会社
メディア部門メディア企画部勤務

「東京の友人からは、同志社は自然がいっぱいで羨ましいと言われます。たしかに、静かに考えごとのできる場所はたくさんありました」と振り返る宇佐美さん。京都の名所を尋ねられることもあるが「実はあまり知らなくて。学生時代にもっと訪ねておけばよかったですね」と残念がる。現在は生まれて初めての一人暮らしを満喫。料理とヨガに夢中だとか。

C E M E N T

クローバーシアター

毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールで映画史に残る名作を特集上映します。6月は＜ロッセリーニ監督とイタリア映画小特集＞を予定しています。
【日　時】6月6日・20日・27日（火）各日16:45～／18:30～（予定）
【場　所】クローバーホール（今出川校地　寒梅館地下1階）
【料　金】無料
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

CLAP「演じてみよう!～身体表現～」終了公演

5月から10回に渡って行ってきた演劇ワークショップの成果を発表します。本学出身の俳優・二口大学氏の指導のもと、オリジナルの脚本を作り、タイトルの通り身体を目一杯使ってひとつの演劇を完成させました。観る側から演じる側へ―――華麗な転身を遂げた演劇者の勇姿をぜひご覧ください!
【テーマ】ざくろより悲しい子供たち
【日　時】7月7日（金）19:00～　7月8日（土）14:00～
【場　所】クローバーホール（今出川校地　寒梅館地下1階）
【料　金】500円（予定）
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

プール学内一般開放のお知らせ

大学のプール（京田辺校地・屋外）を下記の期間一般開放しますので、ご利用ください。
【期　間】2006年8月1日（火）～8月31日（木）
（8月14日～18日および土・日曜日は除く）
【時　間】13:00～15:00　【料　金】1人1回300円
【対　象】同志社諸学校の学生・生徒および教職員（家族を含む）。
学生証を必ず持参してください。
【お問い合わせ先】京田辺校地教務事務室体育係（磐上館）
TEL:0774-65-7510

観に行こう聴きに行こう ―学生団体6～9月の活動予定―

●今出川校地―寒梅館ハーディーホール・クローバーホール―

6月　3日(土) とんがりぼうし「定例コンサート」 時間未定
6月17日(土) E.S.S.「第33回新島杯争奪全日本学生英語弁論大会」 12:00～
6月17日(土) ギタークラブ「部内コンサート」 時間未定
6月25日(日) One Voices「新入生歓迎ライブ」 13:00～
6月26日(月) 軽音楽部「前期コンサート」 時間未定
7月　8日(土) 邦楽部・雅楽会・能学部合同講演 14:00～

―学生会館―

6月4日(日)、11日(日)将棋研究会「春季学生リーグ一軍戦」 9:00～

―明徳館―

6月20日(火) 学生保健部会「献血」 10:15～

●京田辺校地―多目的ホール（ハローホール）※ホール前広場含む―

6月　1日(木) soul 2 soul「春多目ステージ（ダンス発表会）」 12:20～
6月　3日(土) 軽音サークルF.S.S.「前期オープンホールコンサート」 12:30～
6月10日(土) とんがりぼうし「音楽フェスティバル」 時間未定
6月17日(土) F・A・C「定期演奏会」 11:00～
6月22日(木) F.B.I.「6月上映会」 12:30～
6月24日(土) 軽音サークルPENTA「ライブ」 13:00～
7月　1日(土) 同志社コールフリューゲル「フレッシュコンサート」 9:00～
F・A・C「定期演奏会」 11:00～

●学外

6月6日(火)～13日（火）クラマ画会「前期展」
【場　所】ギャラリー風蝶庵（京都市中京区蛸薬師通御幸町西入）
6月10日(土)能楽部観世会「同観能」 10:00～
【場　所】嘉祥閣（京都市中京区両替町通丸太町下る）
6月17日（土）・18日（日）書道部「第2回青嵐展」 10:00～
【場　所】建仁寺西来院（京都市東山区大和大路通四条下る）
6月25日（日）交響楽団「第45回同立交歓演奏会」 18:00～
【場　所】東京芸術劇場
6月25日（日）グリークラブ「第55回東西四大学合唱演奏会」 17:30～
【場　所】京都コンサートホール大ホール
9月1日（金）～4日（月）法学研究会「第50回移動法律相談」
【場所】9/1～2 岐阜県高山市 高山市役所
9/3～4 岐阜県大垣市 大垣市スイトピアセンター

外国語オナーズ制（外国語科目成績優秀者表彰制度）導入

2006年度から外国語科目の成績優秀者を表彰する外国語オナーズ制度ができました。これは、教養教育の改革・充実の具体的方策の一つで、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語科目について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、意欲ある学生への励みと、外国語学習への動機となるでしょう。
オナーズを希望する学生は、下記の条件をクリアした時点で、「オナーズ選考願」「資格試験のスコア（合格証）」を各学部事務室に提出。受賞者には、学長表彰と成績証明書への記載があります。

オナーズ選考対象者となるための条件

英語

文学部英文学科以外の学生

1）基幹4科目（注1）に、別表に示された科目を合わせて合計20単位以上履修し、そのGPAが3.60以上であること。
2）基幹4科目以外に、「イングリッシュ・プラクティクム1」「同2」「英語文化事情・上級」「現代英語表現法」の上級科目のうち必ず1科目を履修していること。
3）「言語文化三科目1」「同2」（注2）のうち必ず1科目を履修していること。
4）本学入学以降に受験したTOEFL（ITPも可）およびTOEIC(IPも可)で、以下のいずれかのスコアを得ていること。
TOEFL（PBT):550以上　TOEFL（CBT):213以上　TOEIC:730以上

文学部英文学科の学生

1）Communicative English SkillsA～Fの6科目、合計24単位を履修し、そのGPAが3.6以上であること。
2）本学入学以降に受験したTOEFL（ITPも可）で、以下のいずれかのスコアを得ていること。
TOEFL（PBT）：550以上　TOEFL（CBT）：213以上

初修外国語

1）指定の科目群（注3）から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、ハングルのいずれかについて、16単位以上履修し、そのGPAが3.80以上であること。
2）「言語文化三科目1」「同2」のうち必ず1科目を履修していること。
3）本学入学以降に受験した当該外国語の資格試験で、以下に示したレベル以上で合格していること。
ドイツ語技能検定試験 2級またはStart Deutsch B1
実用フランス語技能検定試験 2級またはDELF- B1
中国語検定試験 準2級またはHSK5級
スペイン語技能検定 4級またはDELE, Nivel Intermedio
ロシア語能力検定 2級　「ハングル」能力検定試験 準2級

＊なお、初修外国語神学部が開講するアラビア語、ヘブライ語の条件は、別途定める。
注1:英語文化事情、英語講読、イングリッシュ・セミナー、イングリッシュ・ワークショップ
注2:比較言語文化論、地域言語文化論、メタ言語文化論／注3:指定科目群一覧は、HP参照

A N N O U N

Doshisha Spirit Week 2006 春

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Weekは、キリスト教主義教育や創立者・新島襄について触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として2003年から始まりました。期間中は、講演や展示、Doshisha College Songの歌唱指導などさまざまな企画が行われます。

【期　間】6月12日(月)～17日(土)

＜京田辺校地＞

● 講演

河野仁昭(エッセイスト)　井上勝也(同志社大学名誉教授)

原 誠(神学部教授)　宮庄哲夫(文学部教授)　安保貴志(工学研究科生)

● カレッジソング歌唱指導

6月12日(月) 12:30～　応援団

6月14日(水) 12:30～　混声合唱団こまくさ

●展示「新島襄と同志社」TC1-111

＜今出川校地＞

● 講演

越後屋朗(神学部教授)　本井康博(神学部教授)

清田康晃(文学部生)　角田彰久(経済学部生)

● キャンパスめぐり隊

6月17日(土) 11:00～　良心碑前集合

案内人:本井康博(神学部教授)

※詳細は本学HPや学内掲示板でお知らせします。

【お問い合わせ先】キリスト教文化センター

京田辺:0774-65-7370　今出川:075-251-3320

障がい学生支援スタッフ大募集

障がい学生の自律支援と学生同士の支え合いをめざし、年間を通じてスタッフを募集しています。

～学内・学外を問わず、関心のある方ぜひ登録ください～

≪アシスタントスタッフ(有償)≫募集

聴覚障がい学生の講義保障･･･ノートテイク(筆記通訳)、パソコン通訳、手話通訳、ビデオ字幕付け

視覚障がい学生の講義保障･･･テキストファイル文字校正

≪ボランティアスタッフ(無償)≫募集

視覚障がい学生への支援･･･ガイドヘルプ、対面朗読、代筆、代読など

肢体不自由学生への支援･･･車椅子介助、代筆など

ランチタイム手話(12:30～13:00)

お弁当を食べながら楽しく手話の勉強をしています。どなたでもご自由に参加ください。

京田辺:火曜日と金曜日(嗣業館 学生支援課内)

今出川:月曜日と水曜日(寒梅館 BOX-D)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7410

E-mail:jt-gakse@mail.doshisha.ac.jp

ふらっと(ふらっと)プログラム

開講期間中の水曜日、多目的ホール(ハローホール)では、コンサートや映画上映など、多彩な文化プログラムを行っています。ふらっと･･･ハローホールにお立ち寄りください。

【場　所】多目的ホール(ハローホール)(京田辺校地)

【料　金】無料

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410

いずれも詳細は、掲示や本学HP等でお知らせします。

6月14日(水)映画上映『妖怪大戦争』(124分)

12:30～/15:00～　監督:三池崇史

出演:神木隆之介/宮迫博之/阿部サダヲ/栗山千明/菅原文太/豊川悦司/岡村隆史/竹中直人/忌野清志郎 他

6月21日(水)乞うご期待!　学生企画

時間未定

7月　5日(水)BROWN NOTE LIVE ～アフリカの吟遊詩人～ EPIZO BANGOURA & BANGOURA FAMILY

時間未定

いにしえから続く、ギニアのグリオ(吟遊詩人の家系であるバングーラー族によるライブ。

ココロとカラダのフィットネス　ヨガ体験講座

国際ヨガ協会師範の辻了美講師を招き、レクチャーを交えながら、ポーズや呼吸法を体験します。「スポーツは苦手」という人も、これなら楽しくエクササイズできそう!

【日　時】6月12日(月)、19日(月)、26日(月)15:00～17:00　3回コース

【場　所】ハローホール(多目的ホール)

【受講料】1000円

【定　員】30人(先着順)

【申込締切】6月7日(水)

【申込場所】京田辺校地学生支援課(嗣業館1階)

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410

WOT(ワット)= What 's On Thursdays!

合言葉は「木曜日には何かがある!」開講期間中の毎週木曜日、寒梅館ハーディーホールを利用した映画上映・コンサート等、さまざまなプログラムを開催します。

【場　所】ハーディーホール(今出川校地　寒梅館地下1階)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

Cinema

6月　1日(木)『あおげば尊し』(82分)

15:30～/18:30～　監督:市川準

出演:テリー伊藤、薬師丸ひろ子　他

(本学学生・教職員無料/一般1000円・他学生500円)

6月　8日(木)『蟻の兵隊』特別先行上映(101分)

15:00～/18:30～　★17:00～池谷薫監督('82年文卒)講演会

(どなたも入場無料)

番外編＜成瀬巳喜男の世界＞※時間・料金はお問い合わせください。

6月13日(火)代表作『浮雲』『乱れる』

戦前の代表傑作ピアノ伴奏付き上映会

6月22日(木)黒木和雄監督追悼上映会

14:00～/18:30～『美しい夏キリシマ』(どなたも入場無料)

6月29日(木)『三年身籠る』(99分)

15:30～/18:30～　監督:唯野未歩子/出演:中島知子(オセロ)、西島秀俊

(本学学生・教職員無料/一般1000円・他学生500円)

One Purpose
<ワンパーパス> 同志社大学通信147号
2006年6月1日(4・6・10・12月年4回)発行
発行 同志社大学 企画部広報課
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL 075-251-3120 FAX 075-251-3080
E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp
PRINTED WITH SOY INK

My Purpose 挑戦する人

京都伝統の太夫に挑戦

～半年間の住み込み修業を経て～

東京出身で、京都の街に憧れを持っていた私。受験生の時、大阪で働く父から、伝統ある花街・島原地区の様子や、お座敷で舞や楽器を披露する「太夫さん」の存在を聞き、興味が沸きました。父のもとから大学に通い始めた昨年5月、島原にある元太夫さんのお店を訪ねてみました。すると意外なことに「興味があるなら、うちに住んでみたら」と言ってくださったのです。父も「稽古事の1つとしてやってみてはどうか」と勧めてくれたので、思い切っておかあさん(元太夫さん)にお世話になることを決めました。

太夫さんは、芸事に通じ、かつ高い教養を備えていることが求められます。私も早速、書道、茶道、笛、日舞などの先生に付き、稽古に励みました。おかあさんからは日頃の生活面について指導を受けました。年中綿入りの打掛けに裸足という太夫姿に耐えるためか、極端な気温の中での生活や、掃除・炊事の他、特に厳しく躾けられたのは歩き方です。バレエを習っていたせいか、私はどうしてもつま先が外向きになってしまい、和服には似合わない歩き方をしていたのです。とても厳しい方ですが、太夫にふさわしい立ち居振る舞いを身につけさせようとの計らいだったと思います。

住み込みを始めて約半年後の12月、壬生の武家屋敷で餅つき会がありました。その時、私は初めて太夫姿になりました。住み込みを一旦終え、その後2月に法住寺で行われた節分会でも、太夫姿を披露する機会がありました。京都新聞の一面を飾らせていただき嬉しかったのですが、見習いというにも及ばないくらい、まだまだ未熟です。一人前になるために、稽古に精進しながら、学業もきちんとこなそうと決めています。卒業後、このまま太夫の道を進むかどうかはわかりませんが、京都に来て、このような文化に触れる縁があったことに感謝しています。

Profile

滝澤 尚子さん
【文学部美学芸術学科2年次生】